西山町文化財調査報告書第５集

新潟県刈羽郡西山町

畠田遺跡発掘調査報告書

― 県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査 ―

２００１年３月

西山町教育委員会

新潟県刈羽郡西山町

畠田遺跡発掘調査報告書

―県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査―

2001年3月

西山町教育委員会

例　　言

1．本書は、新潟県刈羽郡西山町大字北野字畠田に所在する畠田遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、県営ほ場整備事業に伴い西山町が柏崎農地事務所と費用負担契約を交わして実施した。

3．調査主体は西山町教育委員会であり、分布調査は新潟県教育庁文化行政課職員の派遣を受けて実施した。発掘調査は平成10年５月19日から同年９月29日までの延べ61日間行い、引き続き平成13年３月31日まで報告書作成を行った。調査体制等は調査経緯の項で述べる。

4．調査費用は90％を農政部局が、残りの10％を文化財保護部局が負担した。保護部局負担のうち50％は国庫補助金、25％は県費補助金を受け、残りの25％を西山町が負担した。

5．遺物の注記には「ＨＴ」の略号を用い、調査年度である98を付した。出土資料及び記録は西山町教育委員会で保管している。

6．本報告書の作成は中島義人の指示のもと整理作業員が行い、本文の執筆及び編集は中島が行った。

7．本文・図版中の北は真北をさし、磁北は真北より西偏約７度34分である。

8．遺物実測図の縮尺は１：３を基本とした。

9．遺構の表記には以下の略号を用いた。

竪穴住居…ＳＩ　土坑…ＳＫ　柱穴・ピット…ＳＰ　溝…ＳＤ　その他の遺構…ＳＸ

10．土器実測図は断面黒塗りのものが須恵器・珠洲焼で、他のものは土師器である。土師器の黒色処理が施されている部分は梨地で表した。

11．遺構平面図の作成及び諸測量、空中写真の撮影は㈱イビソクに委託して行った。

12．現場の土色観察及び土器の色調観察には『新版標準土色帖』（小山・竹原　1967）を用いた。

13．発掘調査においては地元北野集落の皆様の多大な御理解・御協力をいただきました。また、大坪・妙法寺・内方・五日市・新保・坂田集落の皆様からは、調査作業員として御協力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

14．発掘調査から報告書作成に至るまで以下の方々及び機関から御教示・協力を頂いた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

宇野隆夫　尾崎高宏　春日真実　川村　尚　北野博司　北村　亮　田中　亨

笹沢正史　高橋　勉　田辺早苗　望月精司　新潟県柏崎農地事務所

新潟県教育委員会文化行政課　刈羽村教育委員会

目　　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯……1
第Ⅱ章　遺跡の環境……2
1．地理的環境……2
2．歴史的環境……2
第Ⅲ章　調査の概要……5
1．調査の方法……5
2．基本層序……5
3．Ⅰ地区の調査……5
4．Ⅱ地区の調査……10
5．Ⅲ地区の調査……14
まとめ……17
参考文献

挿図目次

第1図……畠田遺跡と周辺の地形（S＝1：50,000）
第2図……畠田遺跡と周辺の遺跡（S＝1：25,000）
第3図……調査区設定図（S＝1：2,000）

図版目次

図版1……Ⅰ地区遺構全体図（折込）
図版2……Ⅰ地区遺構個別図
図版3……Ⅰ地区遺物実測図
図版4……Ⅰ地区遺物実測図
図版5……Ⅰ地区遺物実測図
図版6……Ⅰ地区遺物実測図
図版7……Ⅱ地区遺構全体図（折込）
図版8……Ⅱ地区遺構全体図（折込）
図版9……Ⅱ地区遺構個別図

図版 10……Ⅱ地区遺物実測図
図版 11……Ⅱ地区遺物実測図
図版 12……Ⅱ地区遺物実測図
図版 13……Ⅲ地区遺構全体図（折込）
図版 14……Ⅲ地区遺構全体図（折込）
図版 15……Ⅲ地区遺構個別図
図版 16……Ⅲ地区遺物実測図
図版 17……Ⅲ地区遺物実測図
図版 18……Ⅲ地区遺物実測図
図版 19……Ⅲ地区遺物実測図
図版 20……写真図版 1
図版 21……写真図版 2
図版 22……写真図版 3
図版 23……写真図版 4
図版 24……写真図版 5
図版 25……写真図版 6
図版 26……写真図版 7
図版 27……写真図版 8
図版 28……写真図版 9
図版 29……写真図版 10
図版 30……写真図版 11
図版 31……写真図版 12
図版 32……写真図版 13
図版 33……写真図版 14

第Ⅰ章　調査に至る経緯

西山町では平成10年度から北野地区において県営ほ場整備事業が実施されることとなり、新潟県柏崎農地事務所より町教育委員会に埋蔵文化財に関する照会があった。これをうけて町教育委員会は新潟県教育庁文化行政課と協議し、工事範囲内に周知の遺跡はないものの工事対象範囲が広大であり、地形的に遺跡の存在の可能性が大きいことなどから、文化行政課職員の派遣を要請、職員の指導を受けて事業計画地内の分布調査を平成10年３月に実施した。この結果、畠田・宮ノ前・五十刈地区において古墳時代・古代の遺物が多量に採集された。町教育委員会と柏崎農地事務所で協議した結果、平成10年度の工事予定範囲である畠田地区において速やかに試掘調査を実施する事となり、平成10年４月に試掘調査を実施した。その結果、古墳時代の土師器を中心とした遺物が暗褐色シルト層から出土し、青灰色シルト層で遺構も検出された。これらの結果から、柏崎農地事務所と県教育委員会文化行政課・町教育委員会の間で協議を行い、工事による掘削が遺物包含層に及ぶ揚排水機場及び用排水路予定地の約2,100㎡において遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を工事に先立って実施することとなった。柏崎農地事務所長は平成10年５月22日付け柏農地第611号で文化庁長官へ文化財保護法第57条の３第１項の規定による通知を提出した。その後、平成10年５月15日付けで、柏崎農地事務所と西山町が発掘調査の費用負担契約を交わし、西山町教育委員会が主体となって発掘調査を実施した。文化財保護法第98条の２による通知は平成10年５月25日付け西教第130号によって、西山町教育長から文化庁長官へ提出し、発掘調査に着手した。

調査体制及び期間は以下の通りである。

分布調査（平成10年３月12日～13日）

調査主体　西山町教育委員会（教育長　三嶋千穎）

総　　括　伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）

庶　　務　力間久代（　　〃　　主　　査）

調 査 員　村木　弘（新潟県教育庁文化行政課　主任調査員）

　　島田昌幸（　　〃　　文化財調査員）

試掘調査（平成10年４月21日～23日、５月14日）

発掘調査（平成10年５月19日～９月29日）

調査主体　西山町教育委員会（教育長　三嶋千穎）

総　　括　伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）

庶　　務　力間久代（　　〃　　副参事）

調査担当　中島義人（　　〃　　主事）

第Ⅱ章　遺跡の環境

1．地理的環境

西山町は新潟県の中央よりやや南西の海岸沿い、柏崎平野の北部に位置する。行政区域は約56.63㎢を測る。町の地勢のほとんどは山間地であり、南南西から北北東へ走る曾地丘陵と西山丘陵、両丘陵の構造線に直行して派生する支尾根と、両丘陵の間を南流して柏崎市内で鯖石川に合流する別山川沿いと支尾根間の谷に形成される平野部に分けられる。

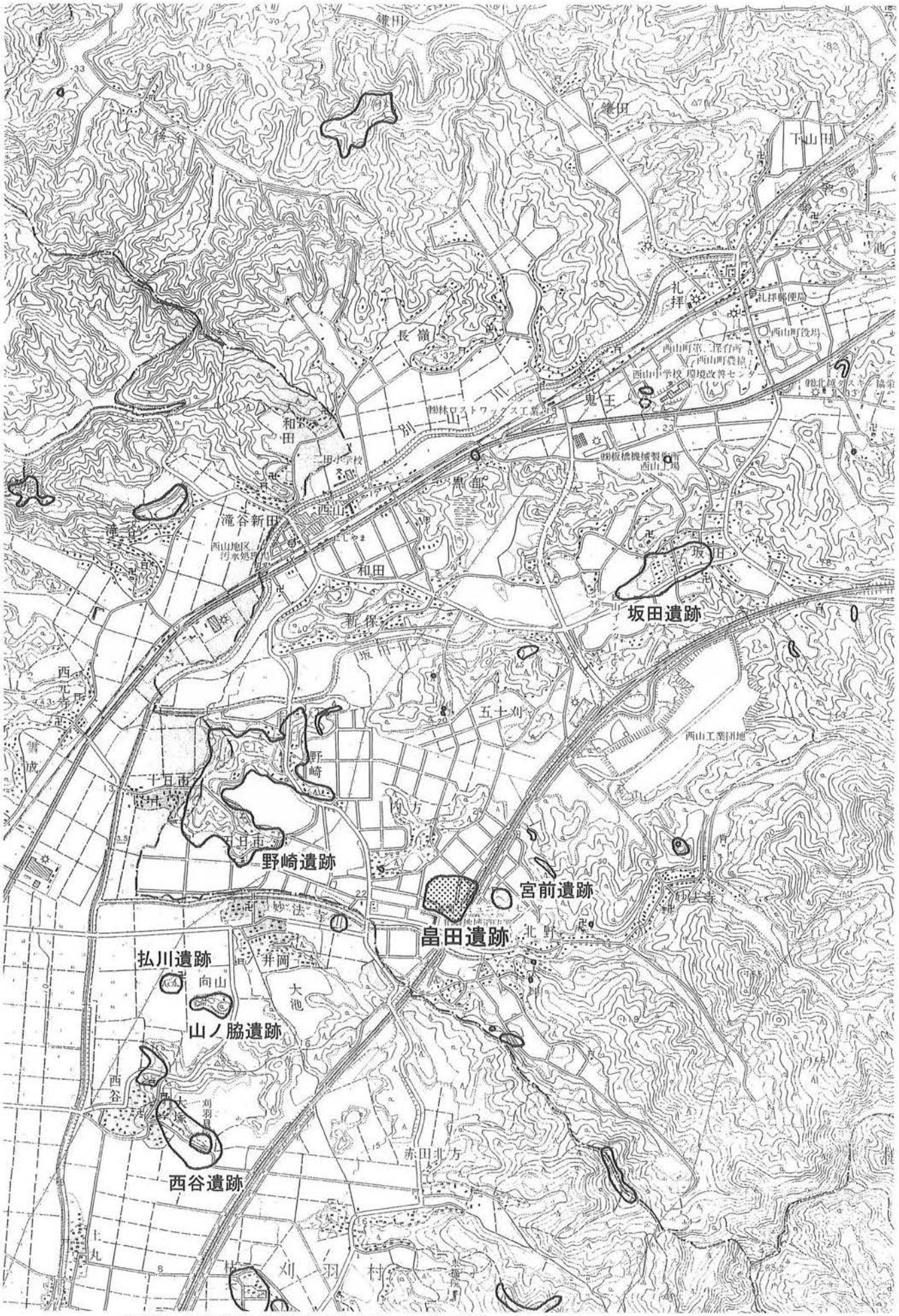
畠田遺跡が立地する北野地区は町の南部地区にあり、曾地丘陵から別山川へ流れ込む妙法寺川の北岸に位置し、遺跡は妙法寺川から150mほど離れている。遺跡のすぐ南東には曾地丘陵から派生する低い支尾根が伸び、他方へは平野が広がる。

2．歴史的環境

西山町は現在刈羽郡に属しているが、律令制期には古志郡、その後９世紀初頭に分立した三嶋郡に属した。刈羽郡という呼称は14世紀の文書で私称されたのが初見で、江戸時代に公称されたものとされる。北陸道諸国は古墳時代には越国の一国であったが、天武もしくは持統朝期（680～690年頃）に越国が三分割された当初は、古志郡は越中国に属した。その後、８世紀初頭に頸城・魚沼・蒲原郡とともに越後の国に繰り入れられたと考えられている。三嶋郡には三嶋・高家・多岐の３郷があったとされ、別山川流域は多岐郷であったと考えられる。郡内には延喜式に記載された神社が６社見られるが、うち二田物部神社・御島石部神社・石井神社・多岐神社の４社の名が町内に残る。

町内における古墳時代及び古代の遺跡で内容が把握できる遺跡は未だ少ない。高塩Ｂ遺跡は石地海岸近くの砂丘上に立地する遺跡で、古墳時代前期と後期の遺物が出土している。前期の遺物は布留式古段階に平行し、Ｓ字状口縁甕や鉄兜型鉢などが出土している。また、後期の遺物では黒色処理を施した碗や、平底長胴の甕、甑などの土師器が出土している。尾野内遺跡は別山川左岸の曾地旧領裾の平坦部に立地し、竪穴住居が１棟、９世紀後半から10世紀代と考えられる須恵器・土師器が出土している。井ノ町遺跡は海岸から約1,800m入った仁位殿川沿いの丘陵裾に立地する。遺跡では古墳時代の土師器も少量出土しているが、その多くは９世紀前半の遺物と考えられる。遺物には「木」もしくはそれに類する墨書を持つ須恵器杯や鉄滓、鞴の羽口などが見られ、掘立柱建物跡、川跡、土坑などが検出されている。宮ノ前遺跡は現在整理中の遺跡であるが、畠田遺跡に隣接する遺跡で、古墳時代後期・古代・中世の遺物・遺構が検出された。古墳時代の遺物には須恵器蓋杯や瓿、土師器などがある。古代の遺構では主軸をそろえた掘建柱建物群が確認され、須恵器・土師器碗に混ざり、灰釉陶器が多数出土している。このほか同時代と見られる未調査の遺物包含地として、坂田遺跡・野崎遺跡などがある。

第１図　畠田遺跡と周辺の地形（Ｓ＝１：50,000）



第２図　畠田遺跡と周辺の遺跡（Ｓ＝１：25,000）

第Ⅲ章　調査の概要

１．調査の方法

発掘調査は遺構面及び包含層に掘削が及ぶ揚水機場予定地と揚排水路予定地を対象に行った。調査区は揚排水機場予定地をⅠ地区、東西に流れる排水路をⅡ地区、南北に流れる排水路をⅢ地区とした。グリッドは各地区の形状に合わせて設定し、Ⅰ地区は５ｍ方眼のグリッドを設定し、東西にＸ軸、南北にＹ軸を設定した。Ⅱ地区は東西に５ｍごとのグリッド杭を打ち、Ｘ軸として西から番号を付した。Ⅲ地区は南北にＹ軸を設定し北から５ｍごとに番号を付した（第３図)。包含層出土の遺物はこのグリッドを用いて取り上げた。

２．基本層序

基本層序は上から表土耕作土、灰色粘質シルト、緑灰色粘質シルト、暗灰色粘質シルト、緑灰色シルト地山である。灰色粘質シルト、緑灰色粘質シルト、暗灰色粘質シルトは炭化物を含むところが多い。遺物包含層は暗灰色粘質シルト層である。

３．Ⅰ地区の調査

Ⅰ地区の遺構

ＳＩ１

Ｘ２～３Ｙ４～５に位置し、ＳＤ２に切られる。一辺約６ｍのほぼ正方形を呈し、主軸はN－35°－Eである。埋土は黒褐色粘質土を基本に水平堆積である。西壁中央近くに浅い掘り込みがあり、炭混じりの暗灰色粘質土から土師器甕の底部（９）が出土した。

ＳＰ１

Ｘ５Ｙ５に位置する直径30cmの穴である。埋土中から土師器甕の口縁部（14）が出土した。

ＳＤ１

Ⅰ地区北部にある幅１～1.5m、深さ15cmの溝である。南端はＸ３Ｙ５で徐々に浅くなって切れており、北はⅡ地区ＳＤ１につながってさらに北へのびる。主軸はN－10°－Eである。底部には小さな凹凸がある。埋土は黒色粘質シルトである。古墳時代の土師器の小片が出土した。

ＳＤ２

Ｘ２・３Ｙ４に位置し、ＳＩ１を切る。西は調査区壁に切られ、さらに西へ伸びる。幅90cm、深さ10cmで、埋土は黒褐色粘質土である。古墳時代の土師器が出土した。

第３図　調査区設定図（Ｓ＝１：2,000）

ＳＫ１

Ｘ４Ｙ３に位置する長径1.2m、短径0.6m、深さ0.2mの浅い土坑である。埋土は黒色粘質土、黒褐色粘質土、褐灰色シルトである。埋土中から数片の土器が出土した。

ＳＫ２

Ｘ４Ｙ５に位置する長径6.3m、短径4.0mの浅い土坑で、埋土は黒褐色粘質土である。埋土中から古代の土器が大量に出土した。

ＳＫ３

Ｘ４Ｙ４に位置する長径2.2m、短径1.1mの浅い土坑である。埋土はＳＫ２同様の黒褐色粘質土である。

Ｉ地区出土遺物

ＳＩ１（１～１３）

土師器

１は碗で口径13cm、内面に緻密な黒色処理が施される。２は壷で口径8.4cm、口縁端部が短く外反する。内面にヨコナデ痕が顕著に残る。３は壺の口縁部である。口縁端部を上につまみ上げ、端部外面に一条の沈線が巡る。器表は丁寧に磨かれる。４～８は甕の口縁部である。４は内面の頸部以下にコゲが強く付着し、外面は比熱により赤く変色する。５の外面は縦方向のハケメ、６の外面は縦のヘラナデ、内面は横方向のヘラケズリである。９～11は甕の底部である。10は内面にヨコハケ、11は外面にタテハケを行う。何れも外面は被熱によって劣化している。

石製品

12・13は砥石である。13は基部が欠損している。

ＳＰ１（14）

14は土師器甕で、口径14cmを測る。頸部で緩く「く」の字に屈曲し、短い口縁部が付く。頸部内面に接合痕が残る。

ＳＤ１（15・16）

甕の口縁部破片である。15は口縁端部を外側に引き出し、丸く納める。16は端部を尖らせ、内面頸部には屈曲による稜が強く付く。

ＳＤ２（17～19）

17は土師器碗の口縁部破片である。端部を外側に引き出して収める。18は器台の脚部の付け根である。19は高杯の口縁部で、口縁端部が緩く外反する。

ＳＫ１（20）

20は土師器甕で頸部は「く」の字に強く屈曲し、端部を外側に引き出す。胎土に0.2～１㎜の小礫を多く含む。

ＳＫ２（21～32）

21は須恵器の杯蓋である。口径14cmを測る。端部を下に折り曲げ、断面三角形を呈する。22は有台杯の底部である。高台は外端接地で、やや太くしっかりしたものである。底部の切り離しは回転糸切りで、外縁にロクロケズリを行う。胎土は灰白色を呈し、0.5㎜大の礫が少量混ざる。23・24は無台杯の口縁部である。23は口径11cmを測り、胎土には２㎜の礫を含む。焼成は不良でやや軟質である。24は口径11cmを測り、内面の底部付近があばた状に剥離する。25は無台杯の底部で回転ヘラ切り後ナデ調整を行う。胎土に５㎜ほどの礫が少量混じり、色調は灰白色、焼成はやや軟質である。

26は高杯の杯底部である。底部が広く開き、脚部の付け根中央に小さな突起を持つ。27は鉢で、端部外面に広く面を取り、その下にヨコハケを行う。胎土に２㎜の小礫が混じり、焼成は良好で堅緻である。

28・29は古墳時代の甕の口縁部破片である。28は口縁部がやや内湾気味に広く開き、端部に面を取る。29は端部を丸く収める。30・31は古代の土師器甕である。何れもロクロ成形のもので、31は外面にカキメを行う。頸部は「く」の字に曲がり、口縁端部は面を持つ。胎土に１㎜の礫が多量に混じり、焼成は良好である。体部外面に煤が付着する。

32は土錘で、長さ8.2cm、最大幅4.6cm、穴の径は1.6cmを測る。胎土に１～５㎜の礫を多量に含み焼成は堅緻である。

ＳＫ３（33）

出土遺物はやや多かったが図化し得たのは33のみである。33は須恵器無台杯の底部で、底部は回転ヘラ切り後ナデ調整を行う。

Ｉ地区包含層出土の遺物

古墳時代の遺物

須恵器

杯蓋（34・35）　34・35接合はしないものの同一個体とみられる。口縁端部は内傾して窪みを持つ面がある。口縁部と天井部の境の稜は下に開き、尖り気味で、外面天井部は下半にカキメを巡らし、頂部にロクロケズリを行う。内面天井部にもカキメを行う。胎土は緻密で、黒色の小さな吹き出しがある。焼成は良好で、色調は明るめの灰色である。

蓋杯（36）　36は口縁部が欠損しているが、口径は12cm前後になる。カエリは太く短く、底部にロクロケズリを行う。胎土には直径0.5㎜以下の小礫がごく少量混入し、黒色の小さな吹き出し

が少量見られる。

土師器

碗（37～41） 37は底部が狭い平底で半球型の体部を持つ。口縁端部は細く収め、内側に面を持つ。胎土に礫が多く混じる。38～41は黒色処理を行う。38～40は口縁端部が外側に折り曲がる。41は安定した平底で、胎土に１㎜の礫がやや多く入る。何れも焼成は良好である。

高杯（42～51・53） 42は黒色処理を行う。44は体部中位に稜を持ち、口縁部は薄くのびる。45は胎土に礫を多く含む。裾の付け根に指頭圧痕が目立ち、脚部の付け根に突起を持つ。46は筒状の脚部で、突起を持つ杯底部を接合していたものと考える。48・51は太く中実の脚部に荒い黒色処理の杯部が付く。50は杯底部の突起を脚部に差し込み、脚部内面に粘土を張り付けて固定したあとが見られ、脚部内面に粘土積み上げの接合痕が目立つ。51は太く短い脚部に小さな裾が付く。53の外面は縦のヘラミガキを、内面は横にハケメを短く行う。胎土に小雲母、小礫、海面骨針が入り、焼成は良好で色調は橙である。

器台（52） 中央の孔は直径８㎜で棒状工具によってあけたものと見られる。裾は大きく開く。器表は平滑である。

鉢（54～56） 54は口径10.5cm、底径3.3cm、器高10.6cmを測る。体部下半に煤が強く付く。55は口径7.0cmを測る。球胴の体部が内湾したまま口縁部となる。口縁端部外面はナデによる段を持つ。56は口径13.0cmを測る。口縁部は肥厚し、端部を尖り気味に収める。

手捏ね土器（57～61） 口縁部のゆがみが大きく、内面に指頭圧痕がよく残る。何れも法量や細かな形態、胎土などに統一性はない。58は海面骨針を多く含む。

甕（62～85） 62は口縁端部外面に数状の沈線を巡らせた面を持つ。体部外面と内面の頸部下にハケメ、体部内面はヘラナデを行う。外面全体に煤が強く付着するが、内面に炭化物などは見られない。63の口縁部は短く肥厚し、端部を丸く収める。64は口縁部内面に炭化物が少量付着する。65は口縁端部をつまみ上げ、端部外面に一条の沈線が巡る面を持つ。体部外面に縦のヘラケズリ、内面に細かいハケを行う。66の口縁端部は外側に肥厚し、頸部外面に段を持つ。外面に煤が付着する。67は端部を尖り気味に収め、頸部には66同様の段が付く。68は口縁部の開きが小さく、端部を尖り気味に収める。69の体部外面は縦にヘラケズリを行う。70は体部外面に横のハケを行った後、左上がりのハケを荒く行う。体部中位に煤が強く付く。72は口縁端部を上につまみ上げる。73は体部外面に縦のハケを行う。77は口縁端部に面を持ち、体部外面にハケを行う。78は口径14cm、器高25.8cmを測り、底部は丸底である。体部外面に縦のハケを、内面にヘラナデを行う。口縁端部は丸く収める。外面体部中位に煤が付き、下半は熱により赤く変色する。内面に炭化物などは見られない。79～85は底部破片で、何れも平底である。82・83は底部から体部にかけて煤が強く付着し、79・80は体部が焼けて変色する。85は内外面にハケを行う。

古代以降の遺物

須恵器

蓋（86） 口径14cmを測る。天井部外面にロクロケズリ後ナデを行う。端部は断面三角形である。

有台杯（87～91） 87は稜碗である。口径11cmを測る。体部中位の稜が強く張り、口縁部は外反する。88は口径13cmを測る。89は口径13cm、高台径８cm、器高3.7cmを測る。底部は回転ヘラ切り後外縁にヘラ削りを行い、高台は外端接地である。底部内面中央が摩滅する。90の切り離しは回転糸切りで、太く短い高台が付く。外底面に墨書痕がある。胎土に礫を少量含む。焼成はやや軟質で、灰白色を呈する。90の高台は内端接地で、底部切り離しは回転ヘラ切り無調整である。

無台杯（92～97） 92の外面はロクロナデによる段が顕著である。93は胎土に礫をやや多く含む。灰白色を呈し、やや軟質である。94は内湾気味の口縁部である。95の焼成はやや軟質である。96は口径13cm、底径10.4cm、器高3.2cmを測る。底部は回転ヘラ切り後ナデを行う。97の胎土は粗く礫をやや多く含み、器面には小さな孔が多く見られる。

長頸瓶（105） 105は長頸瓶の頸部である。頸部中位に２条の沈線が巡る。胎土に１㎜ほどの白色粒が多く混じる。

壺（106） 底部に高台がはがれたあとがある。体部外面にロクロケズリ、内面にロクロナデを行う。内底面は一定方向のナデを全面に行う。胎土は粗く４㎜大の礫を多く含み、焼成は堅緻である。

甕（108・109） 何れも体部破片である。108の外面は擬格子叩きの後カキメを、109は平行叩き後カキメを行う。内面当て具痕は同心円である。

土師器

碗（98～104） 101・103は口縁端部が外側に開き、端部内面に面を持つ。100・104は回転糸切り痕が残る。100は口径12cm、底径5.4cm、器高3.8cmを測る。

甕（107） 口縁端部をつまみ上げ、端部外面に面を持つ。胎土に２㎜の礫を多く含む。２次焼成により外面が劣化する。

珠洲焼き

甕（110） 体部破片である。平行叩きは幅２cmに10条のものである。

４．Ⅱ地区の調査

Ⅱ地区の遺構

ＳＩ１

Ｘ24・25に位置する。確認面からの深さは、最深部で50cmである。埋土は上から炭混じり褐灰色粘質シルト、暗褐色粘質シルト、灰色粘質シルトである。住居に伴う施設は確認できない。検出面及び埋土中より多量の遺物が出土した。

ＳＩ２

Ｘ33・40に位置する。東西最大幅4.4m、確認面からの深さ25cmである。床面は平坦である。埋土は黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトである。

ＳＫ１

Ｘ41に位置する。平面形は東西1.4m、南北0.4m、深さ10cmの隅丸長方形の浅い土坑の中央やや西よりに直径25cm、深さ15cmの掘り込みを持つ。埋土は黒色粘質シルト・黒褐色粘質シルト・褐灰色粘質シルトに分層され、上層に炭化物が多く含まれる。

ＳＤ１

Ｉ地区ＳＤ１につながる。幅1.4m、深さ８cmを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。確認面上面から136が埋土中から137～140が出土した。

ＳＢ１

建物、又は柵と考えられる。柱間は西から1.85m、1.75mとなり、軸は真北から西偏64.5°である。

Ⅱ地区出土遺物

ＳＩ１（111～125）

土師器

111～113は高杯の口縁部破片である。いずれも口縁端部が短く外反する。114～117は高杯の底部破片である。114・115は脚部との接合部に突起がある。116は底部と体部の境に稜を持つ。118～121は高杯の脚部である。122は壷の口縁部破片である。口縁部下端に稜を持つ。123～125は甕の口縁部破片である。いずれも表面が摩滅しており、調整は不明である。

ＳＩ２（126・127）

126は高杯で杯底部から脚部の破片で、黒色処理を行う。127は甕の口縁部破片である。ゆるく「く」の字状に外反する。体部外面に縦方向のハケメがある。

ＳＫ１（128～133）

128・129は壷である。128は口縁部及び頸部内面にヨコハケを施し、129は体部外面にヨコハケを行う。130～132は甕の口縁部破片である。132は口縁端部をつまみ上げる。133は甕の底部で、底部中央を小さく窪ませる。

ＳＰ１（134）

134は壷の口縁部破片である。外面の口縁部下端に稜を持ち、内外面に赤彩を行う。

ＳＰ２（135）

高杯である。調整は摩滅により不明である。

ＳＤ１（136～140）

136・137は碗である。136は口縁部がゆるく内湾する。底部外面の中央は小さく窪みその周囲にハケ状工具痕が残る。137は口縁端部がゆるく外反し、内面にヘラミガキ後黒色処理を行う。138・139は高杯で、口縁部が外反し、杯部内面は、ヘラミガキ後黒色処理を行う。138は口縁部外面にヘラミガキ、杯底部外面にヘラケズリ、脚部に縦にヘラミガキを行う。140は甕の頸部から体部上半で、体部外面に縦のハケメを施した後、その下位にヨコハケを行う。

Ⅱ地区包含層出土の遺物

古墳時代の遺物

須恵器

杯蓋（142）　天井部と口縁部の境の稜はにぶく、口縁端部の面をとる。焼成はやや軟質である。

蓋杯（143）　立ち上がりの端部にゆるく面を持つ。

高杯（141・144～146）　141は高杯の杯底部である。底部と体部の境に稜を持ち、その下位にカキメを、上位に波状文を施す。144は無蓋高杯の口縁部で、２条の稜の下に波状文と沈線が巡る。145は杯底部である。脚部には３方の透かしがある。焼成・色調から144と同一個体とみられる。145は脚部で、方形の透かしが残る。

瑳（147）　瑳の体部破片である。体部中位には沈線と波状文が巡る。

甕（148）　甕の頸部破片である。体部外面に格子叩き痕、内面に同心円当て具痕が残る。

土師器

碗（149～153）　149・151は口縁部が直線的で端部が尖る。150は口縁端部が丸く収まり内黒処理をする。152の口縁端部はゆるく外反する。153は口縁部が内湾気味で、端部は尖り気味に収まる。

高杯（154～158）　154は口縁部が大きく外反し、端部は丸く収まる。口縁部と体部の境はゆるく屈曲する。脚柱部は太く、裾部が大きく開く。調整は杯部内面が横のヘラミガキ後黒色処理、外面口縁部が横のヘラミガキ、杯底部外面にヘラケズリ、脚柱部が縦のヘラケズリである。155は内湾する体部が屈曲して口縁部が直線的に外へ開く。156は大きく開く杯底部に、棒状の脚部が付く。157は小型の高杯で、脚部は杯底部から外反して大きく開く。158は太い脚柱部から裾部が大きく開き、端部で短く外反する。

壺（159・160）　159の口縁部は頸部より肥厚し、端部の外側を面取りする。160は口縁部と頸部

の境に大きな稜を持つ。端部は尖り気味に収まる。

甕（161～171） 161～168は口縁部を含む破片である。161は口縁部外面中位に稜を持つ。162～166は頸部でゆるく彎曲し、口縁部が外反して収まる。167は外反する口縁部の端部がさらに外へ広がる。168は頸部がゆるく「く」の字に屈曲する。体部外面に縦のハケメがある。

169～171は底部破片である。169は狭い平底で外面中央が若干上がる。170は体部との境から屈曲して底部が外側に広がる。171は大きく安定した平底である。

甑（172） 172は把手である。甑のものとみられる。手捏ね成形である。

手捏ね土器（173～175） いずれも平底で粗雑な成形である。

古代以降の遺物

須恵器

有台杯（176・177） 底部破片である。高台はいずれも外側に開き、内端で設置する。底部外面はヘラ切り後ナデ調整である。176の底部内面に墨痕が残る。177は回転ヘラ切り痕を丁寧なロクロナデによって消す。高台は外へ開き内端接地である。

無台杯（178・179） 178は口径13cm、179は口径14cm、底径11cm、器高3.4cmである。179は底部外面のヘラ切り痕をロクロナデにより丁寧に消される。

甕（182～184） 182は肩部の破片で、外面に細かく密なカキメを施し、内面に同心円当て具痕がある。183・184は体部破片である。外面の叩き目はいずれも擬格子で、内面当具痕は183が同心円、184が平行である。

土師器

無台碗（180・181） 180は口径12cm前後となる。口縁端部がやや外反する。181は底径4.6cmを測る。摩滅が激しいが、底部外面に回転糸切り痕が残る。

石製品

紡錘車（186） 底径3.7cm、高さ1.2cmで、孔の直径は７㎜を測る。石材は滑石である。

砥石（187） 長さ８cmを測る。基部に直径５㎜の孔が貫通している。石材は凝灰岩である。

５．Ⅲ地区の調査

Ⅲ地区の遺構

ＳＩ１

Ｙ２・３に位置し、西側は調査区外に続く。南北4.0m以上、東西2.8m以上を測る方形住居の南東角が検出された。住居に伴う柱穴は見られない。確認面からの深さは約45cmである。北側の明黄褐色層の堆積後に第７層の炭層が形成され、その後さらに埋没したと見られる。遺物は炭層より上層から出土した。

畝状遺構

Ｙ４～12に東西に走る畝状の遺構が多く検出された。幅20～40cm、深さ20cm前後で、床面は凹凸が多い。埋土は黒褐色の粘質土である。少量の遺物が出土するものもあるが、いずれも小片であり、摩耗しているものが多い。

Ⅲ地区出土遺物

ＳＩ１（188～239）

須恵器

蓋杯（188）　口径10.8cm、器高5.3を測る。立ち上がりは高く、端部内面に面を持つ。カエリは短い。底部外面に篦起こし痕が残る。胎土は荒く礫を多く含み、焼成は還元軟質である。

高杯（203）　脚部の小片である。方形の透かしを持つ。胎土は緻密で焼成は良好、暗青灰色を呈する。

甕（205）　口径19cmを測る。外面端部下端に稜を持つ。焼成はやや軟質である。

土師器

碗（189～198）　192・194・196・197は内面に黒色処理を行う。口縁部形態は外反（190・195・197・198）、内湾（191・192・196）、直線的（189・193・194）に収まるものに分けられる。焼成は良好のものが多い。

高杯（199～202・204）　200・201は口縁部が外反し，黒色処理をする。202の脚部内面は斜位に短いハケメを巡らせ，外面に縦のヘラミガキを行う。胎土に小礫，金雲母を多く含む。焼成は良好で，堅緻である。

壷（206～209）　206は内面口縁部下半から体部にかけてヘラミガキを行う。外面体部は縦のハケメの後，横にヘラミガキを行う。207と208は同一個体とみられる。口縁部の調整は摩滅により不明である。体部外面は横のヘラミガキである。体部内面には粘土接合痕が顕著に残る。209は端部外面に面を持つ。

甕（212～239）　体部の調整は外面に縦位のハケメ、内面に横位のハケメを基本とする。口縁部形態は頸部で「く」の字に屈曲するものと、緩く外反するものに分けられる。底部は239が丸底の他は、いずれも平底である。

石製品（211） 住居床面直上から出土した。側面に擦痕がある。石材は安山岩である。

ＳＰ１（240）

240は須恵器有台壺の底部である。ピット上面から出土した。底径9.8cmを測る。高台は内外端部が尖り、内端で設置する。外面体部にロクロケズリを行う。底部中央に径２cmほどの孔が開き、孔周辺の内底面が剥離している。

ＳＰ２（241）

241は土師器甕である。口径19cmを測る。

ＳＰ３（242・243）

242は高杯の口縁部である。内面に黒色処理を行う。243は甑の底部である。端部に面取りを行う。

ＳＰ４（244）

244は内面に黒色処理を施した高杯である。口縁部が大きく外反して開く。

ＳＰ５（245）

器形の推定が困難であるが樽形の瑳とみられる。体部に波状文を施し、閉塞部付近の内面に絞り込んだ痕跡が残る。焼成は良好で、青灰色を呈する。

Ⅲ地区包含層出土の遺物

古墳時代の遺物

須恵器

蓋杯（246・247） 246は口径10cmを測る。立ち上がりが高く、カエリは短い。口縁端部に面を取る。247は体部下半が丸みを帯び、短いカエリが付く。

瑳（248） 瑳の体部破片である。上部に波状文を施し、その下に沈線が巡る。焼成は良好で、青灰色を呈する。

土師器

碗（249～251） 249は口縁部が短く外反し、240・251の口縁部は強いヨコナデによって薄くされる。251は黒色処理を行う。

高杯（252） 裾における直径13cmを測る。内面に裾部と脚柱部の接合部が明瞭に残る。

甕（253） 口径16cmを測る。口縁部は緩く外反し、体部外面に縦のハケメ、内面に横のハケメを行う。

古代以降の遺物

須恵器

有台杯（254）　底径７㎝を測る。外端接地の短い高台が付く。

無台杯（255～258）　255・256は口縁部の破片である。255の内面に一条の沈線が巡る。257・258は底部破片で、回転ヘラ切り後ロクロナデが施される。

長頸瓶（259）　頸基部である。外面に薄く自然釉がかかる。

壺（260～262）　いずれも底部破片である。261の外底面に指頭圧痕が巡る。

甕（263～266）　甕の体部破片である。263は外面擬格子叩き痕、内面並行当て具痕が残る。264は外面擬格子叩き痕、内面同心円及び並行当て具痕が残る。265は外面並行叩き痕、内面同心円当て具痕が残り、266は外面擬格子叩き後カキメを施し、内面に同心円当て具痕が残る。

珠洲焼き

擂鉢（267）　口縁部の破片である。端部の面は並行で、幅２㎜の卸目が施される。

ま と め

畠田遺跡について

畠田遺跡は新潟県の中央よりやや南西の刈羽郡西山町大字北野字畠田に所在する。遺跡は曾地丘陵の構造線から西へのびる支尾根の裾、曾地丘陵から別山川に合流する妙法寺川の北岸に位置し、現況は水田で標高は約19mである。遺跡は県営担い手育成基盤整備事業に伴い、平成10年３月に行われた分布調査によって存在が予測され、同年４月の確認調査で発見された。発掘調査は平成10年５月より行った。発掘調査の範囲は用排水路及び用排水機場予定地の約2,100㎡である。発掘調査の結果、古墳時代・古代・中世の遺物・遺構が検出された。遺跡の主体をなすのは古墳時代の集落跡で、当期の須恵器がまとまって出土したことが注目できる。

古墳時代

古墳時代の遺構には竪穴住居４棟のほか、溝・土坑・柱穴などがある。竪穴住居のほぼ全形を確認しえたものはＩ地区ＳＩ１の１棟で、この住居に竈は見られない。住居の平面形態はいずれも方形と見られる。いずれの住居も貼床は見られず、住居に伴う柱穴なども確認できなかった。当期の遺物では土師器・須恵器・石製品が出土している。

土師器では碗・高杯・器台・壷・甕・甑が確認できる。碗・高杯では約30％に黒色処理が行われる。碗は口縁部が外反するものと素直に収まるものに分けられるが、黒色処理の有無に差違は伺えない。土師器甕は平底で、体部が大きくふくらみ外面にハケメを行うものが多く、細身のものは少ない。柏崎平野周辺における古墳時代土器の変遷は品田高志氏がまとめられているが、そこでは中期後半に黒色処理を行わない碗の出現から、食膳具への黒色処理の浸透、甕の長胴化への変化が指摘される。畠田遺跡出土の土師器は食膳具の黒色処理の比率が低く、甕の体部が丸味を帯びることから中期末頃から後期前半頃のものと考える。

畠田遺跡で注目されるのは古墳時代の須恵器で、蓋・杯・高杯・瓶・甕が16個体以上確認できる。蓋は口縁端部が長く直立気味に下り、端部に面取りを行う。34・35は同一個体であるが天井部と口縁部の境の稜が鋭く、天井部の内外面にはカキメを巡らす。また口縁部の面の両端も尖り気味である。これはＴＫ47型式までの特徴とみられる。142の蓋は稜がややにぶくなり、口縁端部の面も丸味を帯び、34・35より新しい様相が伺える。杯身は蓋受け部がやや長いもの（143・188・246）と短いもの（36）があり、前者の口縁端部には面をとるものが見られる。いずれも、口縁部の立ち上がりはほぼ直立してのびる。188の底部外面はロクロケズリが念入りに行われる。これらはＴＫ47型式～ＭＴ15型式に収まるとみられる。Ｉ地区出土の高杯は杯部が大きく、口縁部外面に鋭い二段の稜と波状文・沈線が巡り、脚部は三方の方形透かしを持つ。ＴＫ47型式に近いものと考える。瓶は４点確認しているがいずれも器形全体を伺えるものではない。245は樽形瓶としたが、樽形瓶はＴＫ208型式以前に見られるもので、他の須恵器より古い型式とみられる。古墳時代の須恵器生産窯は県内では確認されておらず、他地域からの搬入

品と考えられる。県内で同時代の須恵器の出度量はそれほど多くはなく、包含層からの出土とはいえ量的に多いものと考える。樽形瓶を除いた須恵器の年代は５世紀末頃から６世紀前半と考えられる。

古代

古代の遺構には柱穴・溝・畝状遺構・土坑などがある。調査区が狭いため、建物跡と捉えられるような柱穴の並びは確認できなかった。出土遺物には須恵器杯・蓋・甕、土師器甕、土錘などがある。その多くは９世紀代のものとみられる。墨書土器が一点出土したが、小片のため判読はできなかった。

中世

中世のものと捉えられる明確な遺構は確認できなかった。出土遺物は珠洲焼きの擂鉢・甕の他、陶磁器の小片が包含層から出土したのみである。

まとめ

平成11年度に町教育委員会が発掘調査を行った宮ノ前遺跡は北陸自動車道をはさんで畠田遺跡と隣接している。現在整理中ではあるが、遺跡からは古墳時代・古代・中世の遺構・遺物が検出されており、もとは同一の集落であったと考えられる。遺構・遺物の分布状況から、各時代の集落の中心は古墳時代が畠田遺跡、古代・中世は宮ノ前遺跡にあると考えられる。

引用・参考文献

柏崎市史編さん委員会　1983 『柏崎市史資料集　地質』

春日真実　1994 「越後における８世紀中葉の画期について」『北陸古代土器研究第４号』

春日真実　1997 「越後・佐渡における９世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究第６号』

春日真実　1999 「第２節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院

刈羽村教育委員会　1995 『枯木Ａ遺跡』

刈羽村教育委員会　1998 『払川・山ノ脇遺跡』

刈羽村教育委員会　1999 払川遺跡』

川村浩司　1999 「２　須恵器の様相」『新潟県の考古学』高志書院

坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実　1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』

品田高志　1990 「越後における古墳時代土器の変遷－柏崎平野の中期～後期を中心に－」『柏崎博物館報No.４』柏崎市立博物館

品田高志　1994 「古代三嶋郡と古代土器の様相－柏崎平野における古代史理解に向けて－」『柏崎市立博物館報No.８』

品田高志　1999 「３　柏崎平野の土器編年」『新潟県の考古学』高志書院

田辺昭三　1991 『須恵器大成』角川書店

新潟県教育委員会　1979 『狐山塚群』

新潟県教育委員会　1982 『尾野内遺跡　芦ヶ崎砦跡』

新潟県教育委員会　1983 『内越遺跡』

新潟県教育委員会　1994 『上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ　一之口遺跡東地区』

新潟県考古学会　1999 『新潟県の考古学』高志書院

西山町　1963 『西山町史』

西山町　1970 『西山町の民俗と文化財』

西山町　1980 『続西山町史』

西山町教育委員会　1983 『高塩Ｂ遺跡発掘調査報告書』

西山町教育委員会　1985 『多岐ノ脇遺跡発掘調査報告書』

西山町教育委員会　1991 『二塚・甲田城跡発掘調査報告書』

西山町教育委員会　1994 『野崎遺跡発掘調査報告書』

日本考古学協会新潟大会実行委員会　1993 『東日本における古墳出現過程の再検討』

畠田遺跡出土遺物観察表

No.	地区	遺構	種類	器種	口径	底径	器高	手法	胎土	焼成	色調	備考
1	Ⅰ地区	SI1	土師器	碗	13.0			内ーヘラミガキ・黒色		良	浅黄橙	
2	Ⅰ地区	SI1	土師器	壺	8.4				骨針・雲母	良	褐色	
3	Ⅰ地区	SI1	土師器	壺	12.0			内外ーヘラミガキ　端部面取り，凹線	雲母	良	浅黄橙	
4	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕	11.8					普	橙	
5	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕	16.0			外ーハケメ	骨針	普	にぶい黄橙	
6	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕	19.0					良	浅黄橙	
7	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕	20.0					普	橙	
8	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕	20.0					普	浅黄橙	
9	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕		7.0		外ーケズリ　内ーヘラナデ	骨針・小礫	普	にぶい黄橙	
10	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕		2.0			礫	普	浅黄橙	
11	Ⅰ地区	SI1	土師器	甕		7.0		外ーハケメ		普	浅黄橙	
12	Ⅰ地区	SI1	石	砥石								
13	Ⅰ地区	SI1	石	砥石								
14	Ⅰ地区	SP1	土師器	甕						普	橙	
15	Ⅰ地区	SD1	土師器	甕	16.0					良	浅黄橙	
16	Ⅰ地区	SD1	土師器	甕	16.0					普	浅黄橙	
17	Ⅰ地区	SD2	土師器	碗	13.0					良	浅黄橙	
18	Ⅰ地区	SD2	土師器	器台						良	浅黄橙	
19	Ⅰ地区	SD2	土師器	高杯	18.0					普	浅黄橙	
20	Ⅰ地区	SK1	土師器	甕	19.0					良	橙	
21	Ⅰ地区	SK2	須恵器	蓋	16.0			外ー頂部ロクロケズリ		還硬	灰	
22	Ⅰ地区	SK2	須恵器	有台杯		8.0		外ー底回転糸切り，外縁ケズリ		還硬	灰白	
23	Ⅰ地区	SK2	須恵器	無台杯	11.0					酸硬	灰白	
24	Ⅰ地区	SK2	須恵器	無台杯	11.0					還硬	灰（やや黒）	
25	Ⅰ地区	SK2	須恵器	無台杯		8.0		外ー底ヘラ切りナデ		還硬	灰白	
26	Ⅰ地区	SK2	土師器	高杯					骨針	良	浅黄橙	
27	Ⅰ地区	SK2	土師器	鉢	13.0			外ー口ハケメ		良	浅黄橙	
28	Ⅰ地区	SK2	土師器	甕	18.0					普	浅黄橙	
29	Ⅰ地区	SK2	土師器	甕	19.0					良	にぶい黄橙	
30	Ⅰ地区	SK2	土師器	甕	22.0					良	にぶい黄橙	
31	Ⅰ地区	SK2	土師器	甕	20.0			外ーカキメ	礫	良	浅黄橙	
32	Ⅰ地区	SK2	土製品	土錘					礫	良	黄橙	
33	Ⅰ地区	SK3	須恵器	無台杯		9.0		外ー底ヘラ切りナデ		還硬	灰	
34	Ⅰ地区	包含層	須恵器	杯蓋				外ー頂部ロクロケズリ・カキメ　内ー頂部カキメ		還硬	灰	
35	Ⅰ地区	包含層	須恵器	杯蓋	12.0			外ー頂部カキメ		還硬	灰	34と同一個体
36	Ⅰ地区	包含層	土師器	蓋杯						還硬	灰	
37	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	12.0	4.0	4.7			軟質	浅橙	
38	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	13.0			内ーミガキ・黒色　外ーミガキ	骨針	良	浅黄橙	
39	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	14.0			内ーミガキ・黒色　外ーミガキ	骨針	良	浅黄橙	
40	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	14.0			内ーミガキ・黒色　外ーミガキ	骨針・雲母	良	浅黄橙	
41	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗		6.0		内ーミガキ・黒色　外ーミガキ	小礫	良	浅黄橙	
42	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	16.0			内ーミガキ・黒色		普	浅黄橙	
43	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	17.0				雲母	良	浅黄橙	
44	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯	20.0				雲母	軟質	にぶい橙	
45	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯					礫	良	浅黄橙	
46	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯					骨針	良	浅黄橙	
47	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯					雲母	普	浅黄橙	
48	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯				内ーミガキ？		良	浅黄橙	
49	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯						良	浅黄橙	
50	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯						普	橙	
51	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯						普	にぶい橙	
52	Ⅰ地区	包含層	土師器	器台				外ー脚ミガキ		良	浅黄橙	
53	Ⅰ地区	包含層	土師器	高杯				外ー脚ミガキ　内ー脚ハケメ		良	橙	
54	Ⅰ地区	包含層	土師器	鉢	10.5	3.3	10.6		雲母	良	浅黄橙	外面下半に強く煤
55	Ⅰ地区	包含層	土師器	鉢	7.0					普	黄褐	
56	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	13.0					普	浅黄橙	
57	Ⅰ地区	包含層	土師器	手捏土器	3.0	2.5	2.6			良	浅黄橙	
58	Ⅰ地区	包含層	土師器	手捏土器					骨針	普	褐灰	
59	Ⅰ地区	包含層	土師器	手捏土器						普	浅黄橙	
60	Ⅰ地区	包含層	土師器	手捏土器					礫	普	浅黄橙	
61	Ⅰ地区	包含層	土師器	手捏土器		3.0				良	浅黄橙	
62	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	14.0			外ーハケメ		普	浅黄橙	外面体部中位煤強い
63	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	16.0					良	にぶい浅黄橙	
64	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	17.0				骨針・礫	普	橙	
65	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	17.0			外ーケズリ　内ーハケメ	礫	普	浅黄橙	
66	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	18.0					良	にぶい橙	
67	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	19.0					普	橙	
68	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	20.0				雲母	普	浅黄橙	
69	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	20.0			外ーケズリ		良	浅黄橙	
70	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕				外ーハケメ	礫	良	黄橙	
71	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	15.0					普	にぶい橙	
72	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	18.0				雲母	良	浅黄橙	
73	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	17.0			外ーハケメ		普	にぶい黄橙	
74	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	18.0					良	浅黄橙	
75	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	20.0					普	にぶい橙	
76	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	19.0					普	浅黄橙	
77	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	24.0			外ーハケメ		普	浅黄橙	
78	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	14.0			内ーヘラナデ　外ーハケメ		良	浅黄橙	
79	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		4.2			骨針・礫	良	黄橙褐	
80	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		6.0			礫	普	にぶい橙	
81	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		5.2				普	浅黄橙	
82	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		3.6		外内ーハケメ		良	黄橙	外面煤強い
83	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		5.2				普	にぶい黄橙	

No.	地区	遺構	種類	器種	口径	底径	器高	手法	胎土	焼成	色調	備考
84	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		6.4			骨針	良	にぶい黄橙	
85	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕		6.6		外内 - ハケメ	雲母・骨針	普	にぶい黄橙	
86	Ⅰ地区	包含層	須恵器	蓋	14.4			外 - 頂部ヘラ切りナデ		還硬	青灰	
87	Ⅰ地区	包含層	須恵器	稜碗	11.0					還硬	灰	
88	Ⅰ地区	包含層	須恵器	有台杯	13.0					還硬	青灰	
89	Ⅰ地区	包含層	須恵器	有台杯	13.0	10.0	3.9	外－底ヘラ切り		還硬	青灰	
90	Ⅰ地区	包含層	須恵器	有台杯		8.0		外－底糸切り		還軟	灰白	外底面墨書有り
91	Ⅰ地区	包含層	須恵器	有台杯		9.0		外－底ヘラ切り	黒色吹出	還硬	青灰	
92	Ⅰ地区	包含層	須恵器	無台杯	12.0					還軟	灰白	
93	Ⅰ地区	包含層	須恵器	無台杯	12.0					還軟	灰白	
94	Ⅰ地区	包含層	須恵器	無台杯	12.0					還硬	明青灰	
95	Ⅰ地区	包含層	須恵器	無台杯	13.0					還軟	灰白	
96	Ⅰ地区	包含層	須恵器	無台杯	13.0	10.4	3.2	外－底ヘラ切りナデ		還軟	灰白	
97	Ⅰ地区	包含層	須恵器	無台杯	13.0	9.4	3.0		骨針	還硬	灰白	
98	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	11.0					良	にぶい橙	
99	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	12.0			外－底糸切り		良	にぶい橙	
100	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	12.0	5.4	3.8		礫	良	浅黄橙	
101	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	13.0					良	にぶい橙	
102	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	13.0					良	浅黄橙	
103	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗	15.0					良	にぶい黄橙	
104	Ⅰ地区	包含層	土師器	碗		5.4		外－底糸切り	雲母	良	浅黄橙	
105	Ⅰ地区	包含層	須恵器	長頸瓶				外－沈線２条		還硬	灰	
106	Ⅰ地区	包含層	須恵器	壺		12.0		外－ケズリ	礫	還硬	灰	
107	Ⅰ地区	包含層	土師器	甕	27.0				雲母	良	浅橙	
108	Ⅰ地区	包含層	須恵器	甕				外－擬格子叩・カキメ　内－同心円当具		還硬	灰白	
109	Ⅰ地区	包含層	須恵器	甕				外－平行叩・カキメ　内－同心円当具		還硬	灰	
110	Ⅰ地区	包含層	珠州	甕				外－平行叩		還硬	青灰	
111	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯	15.0				骨針	普	橙	
112	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯	16.0				雲母	良	にぶい橙	
113	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯	19.0				骨針	軟質	橙	
114	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯					雲母	良	浅黄橙	
115	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯						普	橙	
116	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯					雲母・骨針	普	にぶい橙	
117	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯						普	浅黄橙	
118	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯	7.6					普	にぶい橙	
119	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯					骨針	軟質	にぶい橙	
120	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯						普	橙	
121	Ⅱ地区	SI1	土師器	高杯		14.0				普	浅黄橙	
122	Ⅱ地区	SI1	土師器	壺	18.0				骨針	普	黄橙	
123	Ⅱ地区	SI1	土師器	甕	18.0					普	浅黄橙	
124	Ⅱ地区	SI1	土師器	甕	19.0				骨針・長石	普	にぶい橙	
125	Ⅱ地区	SI1	土師器	甕	19.0					普	浅黄橙	
126	Ⅱ地区	SI2	土師器	高杯				内－黒色	骨針	普	橙	
127	Ⅱ地区	SI2	土師器	甕	19.0			外－ハケメ		普	にぶい橙	
128	Ⅱ地区	SK1	土師器	壺	21.0			内－ハケメ		良	浅黄橙	
129	Ⅱ地区	SK1	土師器	壺	14.5			外－ハケメ		軟質	浅黄橙	
130	Ⅱ地区	SK1	土師器	甕	20.0			外－ハケメ	雲母	普	浅黄橙	
131	Ⅱ地区	SK1	土師器	甕	18.0					普	にぶい黄橙	
132	Ⅱ地区	SK1	土師器	甕	19.0					良	浅黄橙	
133	Ⅱ地区	SK1	土師器	甕		1.6			礫	良	にぶい橙	
134	Ⅱ地区	SP1	土師器	壺	17.0					良	浅黄橙	
135	Ⅱ地区	SP2	土師器	高杯					骨針	普	橙	
136	Ⅱ地区	SD1	土師器	碗	14.0	6.2		外－底ケズリ	骨針	良	浅黄橙	
137	Ⅱ地区	SD1	土師器	碗	14.0			内－ミガキ・黒色　外－ミガキ	骨針	良	浅黄橙	
138	Ⅱ地区	SD1	土師器	高杯	14.6			内－ミガキ・黒色　外－口ミガキ・体底ケズリ・脚ミガキ	礫・雲	良	橙褐色	黒色処理
139	Ⅱ地区	SD1	土師器	高杯	16.0			内－ミガキ・黒色　外－ミガキ	骨針	良	にぶい黄橙	
140	Ⅱ地区	SD1	土師器	甕				外－ハケメ		普	にぶい橙	
141	Ⅱ地区	包含層	須恵器	高杯				外－ケズリ・沈線・波状文		還硬	青黒	
142	Ⅱ地区	包含層	須恵器	杯蓋	12.0					還硬	灰	
143	Ⅱ地区	包含層	須恵器	蓋杯	10.4				礫	還硬	青灰	
144	Ⅱ地区	包含層	須恵器	高杯	21.0			外－波状文・沈線	礫	還硬		
145	Ⅱ地区	包含層	土師器	高杯				内－底仕上げナデ	礫	還硬		
146	Ⅱ地区	包含層	須恵器	高杯		10.0		方形透かし		還硬	暗青灰	
147	Ⅱ地区	包含層	須恵器	鉢				外－波状文・沈線		還硬	灰	
148	Ⅱ地区	包含層	須恵器	甕				外－格子叩　内－同心円当具	白色礫	還硬	青灰	
149	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗	12.0					良	にぶい橙	
150	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗	14.0			内－黒色		良	浅黄橙	
151	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗	13.0					軟質	橙	
152	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗	15.0				骨針	良	橙	
153	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗	17.0					軟質	橙	
154	Ⅱ地区	包含層	土師器	高杯	15.2		9.8	内－ミガキ・黒色　外－口ミガキ・底ケズリ・脚ミガキ		良	黄橙	黒色処理
155	Ⅱ地区	包含層	土師器	高杯	13.0				骨針	良	橙	
156	Ⅱ地区	包含層	土師器	高杯					骨針	軟質	橙	
157	Ⅱ地区	包含層	土師器	高杯						普	橙	
158	Ⅱ地区	包含層	土師器	高杯						普	橙	
159	Ⅱ地区	包含層	土師器	壺					礫	良	浅黄橙	
160	Ⅱ地区	包含層	土師器	壺	20.0				礫	良	橙	
161	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	14.0				礫	普	橙	
162	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	15.0				骨針・礫	軟質	灰黄褐	
163	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	15.0					良	にぶい黄橙	
164	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	16.0			外－ハケメ		良	浅黄橙	
165	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	18.0					良	浅黄橙	

No.	地区	遺構	種類	器種	口径	底径	器高	手法	胎土	焼成	色調	備考
166	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	21.0					普	浅黄橙	
167	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	21.0					軟質	浅黄橙	
168	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕	21.0			外ーハケメ		良	橙	
169	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕		7.4		外ーケズリ？	骨針	普	浅黄橙	
170	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕		6.0				普	橙	
171	Ⅱ地区	包含層	土師器	甕		7.0				良	浅黄橙	
172	Ⅱ地区	包含層	土師器	甑				手捏ね	礫	普	にぶい橙	
173	Ⅱ地区	包含層	土師器	手捏土器	3.0	3.0	2.4			軟質	浅黄橙	
174	Ⅱ地区	包含層	土師器	手捏土器	3.4	2.8	2.9			軟質	にぶい橙	
175	Ⅱ地区	包含層	土師器	手捏土器	4.0	3.0	3.2			良好	橙	
176	Ⅱ地区	包含層	須恵器	有台杯		8.6		外ーヘラ切り		還軟	灰白	内底面に墨痕
177	Ⅱ地区	包含層	須恵器	有台杯		14.0		外ーヘラ切り後ロクロナデ	礫	還硬	灰	
178	Ⅱ地区	包含層	須恵器	無台杯	13.0					還硬	灰	
179	Ⅱ地区	包含層	須恵器	無台杯	14.0	11.0	3.4	外ーヘラ切り後ロクロナデ		還硬	灰白	
180	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗	12.0				骨針	良	にぶい黄橙	
181	Ⅱ地区	包含層	土師器	碗		4.6		外ー糸切り	骨針	普	浅黄橙	
182	Ⅱ地区	包含層	須恵器	甕				外ーカキメ　内ー同心円当具		還硬	灰	
183	Ⅱ地区	包含層	須恵器	甕				外ー擬格子叩　内ー同心円当具		還硬		
184	Ⅱ地区	包含層	須恵器	甕				外ー擬格子叩　内ー平行当具		還硬		
185	Ⅱ地区	包含層	須恵器	甕	26.0					酸硬	赤褐	
186	Ⅱ地区	包含層	石製品	紡錘車								滑石
187	Ⅱ地区	包含層	石製品	砥石								凝灰岩
188	Ⅲ地区	SI1	須恵器	蓋杯	10.8		5.3	外ー底ケズリ（ヘラ起こし）		還硬		
189	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	13.0			内ー黒色	骨針	普	にぶい橙	
190	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	13.0			内ーミガキ	骨針・雲	良	浅黄橙	
191	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	14.0			内ーミガキ黒色		普	浅黄橙	
192	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	12.0			内ーミガキ黒色		普	浅黄橙	
193	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	14.0			外ーミガキ		良	にぶい橙	
194	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	15.0			内ーミガキ・黒色　外ーロミガキ		良	浅黄橙	
195	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	13.0				骨針	普	浅黄橙	
196	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	12.0			内ーミガキ黒色　外ーミガキ		良	浅黄橙	
197	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	12.0			内ーミガキ黒色　外ーロミガキ	骨針	良	浅黄橙	
198	Ⅲ地区	SI1	土師器	碗	15.0				骨針	軟質	橙	
199	Ⅲ地区	SI1	土師器	高杯	17.0			内ーミガキ　外ーミガキ	骨針	良	浅黄橙	
200	Ⅲ地区	SI1	土師器	高杯	16.0			内ーミガキ・黒色	骨針	良	浅黄橙	
201	Ⅲ地区	SI1	土師器	高杯	17.0			内ー黒色		良	にぶい橙	
202	Ⅲ地区	SI1	土師器	高杯		14.5		内ー脚ハケメ　外ー脚ミガキ	礫	良	浅黄橙	
203	Ⅲ地区	SI1	須恵器	高杯				方形透かし		還硬	青灰	
204	Ⅲ地区	SI1	土師器	高杯		12.0				軟質	橙	
205	Ⅲ地区	SI1	須恵器	甑	19.0					還硬		
206	Ⅲ地区	SI1	土師器	壺	13.0			内ーミガキ　外ーハケメ		普	橙	
207	Ⅲ地区	SI1	土師器	壺	9.0				骨針	普	橙	
208	Ⅲ地区	SI1	土師器	壺				外ーミガキ	骨針	良	橙	
209	Ⅲ地区	SI1	土師器	壺	16.0			内ーヘラナデ　外ーケズリ		普	浅黄橙	
210	Ⅲ地区	SI1	土師器	手捏土器						普	浅橙	
211	Ⅲ地区	SI1	石製品	砥石								安山岩・側面に擦痕
212	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	13.0	5.0	23.1	内ーヘラナデ　外ーハケメ		良	浅黄橙	
213	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	15.0	6.0	22.9	外ーハケメ	骨針	良	橙	外面中位から下に煤
214	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	14.0			外ーハケメ	骨針	普	浅黄橙	
215	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	17.0			内ーハケメ　外ーハケメ	骨針	軟質	浅黄橙	外面下半表面剥落
216	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	23.0	7.0	29.7	内ーヘラナデ・ハケメ　外ーハケメ		良	浅黄橙	
217	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	30.0			外ーハケメ	骨針・礫	良	浅黄橙	
218	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	14.0			外ーハケメ		普	にぶい黄橙	口縁部に煤
219	Ⅲ地区	SI1	土師器	鉢	15.0				骨針	普	橙	
220	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	15.0			内ーヘラナデ　外ーハケメ	骨針・雲母	良	にぶい橙	
221	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	15.0					普	浅黄橙	
222	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	15.0			内ーハケメ　外ーハケメ	雲母	良	浅黄橙	
223	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	16.0			外ーハケメ		良	浅黄橙	
224	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	16.0					普	橙	
225	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	17.0					普	橙	
226	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	16.0			内ーヘラナデ　外ーハケメ	骨針・雲母	良	浅黄橙	
227	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	20.0					普	浅黄橙	
228	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	16.0					良	浅黄橙	
229	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	20.0			外ーハケメ	骨針	普	黄橙	
230	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	23.0			内ーハケメ　外ーハケメ		良	にぶい橙	
231	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕	21.0			内ーハケメ　外ーハケメ		良	浅黄橙	
232	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		4.0			礫	軟質	橙～浅黄橙	
233	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		5.0		内ーハケメ　外ーハケメ	骨針	普	橙	
234	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		6.0				普	浅黄橙	
235	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		6.0		内ーハケメ		普	浅黄橙	
236	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕				内ーハケメ	礫	普	にぶい黄橙	
237	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		7.0		内ーハケメ　外ーハケメ	骨針	普	にぶい橙	
238	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		8.0		内ーハケメ　外ーハケメ		良	浅黄橙	
239	Ⅲ地区	SI1	土師器	甕		4.6		外ーハケメ	骨針・雲	普	浅黄橙	
240	Ⅲ地区	SP1	須恵器	壺		11.4				還硬	灰	底部ほぼ中央に穿孔
241	Ⅲ地区	SP2	土師器	甕	19.0					普	にぶい橙	
242	Ⅲ地区	SP3	土師器	高杯	15.0			内ーミガキ・黒色		普	浅黄橙	
243	Ⅲ地区	SP3	土師器	甑		11.0				普	浅黄橙	
244	Ⅲ地区	SP4	土師器	高杯	17.0			内ーミガキ・黒色		良	浅黄橙	
245	Ⅲ地区	SP5	須恵器	樽形甑				内ーシボリ　外ー波状文	白色礫	還硬	青灰	
246	Ⅲ地区	包含層	須恵器	蓋杯	10.0				白色礫	還硬	青灰	
247	Ⅲ地区	包含層	須恵器	蓋杯				外ー底ケズリ？		還硬	灰	
248	Ⅲ地区	包含層	須恵器	甑				外ー沈線・波状文	黒色吹出	還硬	灰白	
249	Ⅲ地区	包含層	土師器	碗					長石	普	橙	

No.	地区	遺構	種類	器種	口径	底径	器高	手法	胎土	焼成	色調	備考
250	Ⅲ地区	包含層	土師器	碗	11.0			内－ミガキ・黒色　外－体ケズリ	骨針	良	にぶい黄橙	
251	Ⅲ地区	包含層	土師器	碗	13.0			内－ミガキ・黒色	骨針	普	浅黄橙	
252	Ⅲ地区	包含層	土師器	高杯				外－脚ミガキ		良	浅黄橙	
253	Ⅲ地区	包含層	土師器	甕	16.0			内－ハケメ　外－ハケメ		良	橙	口縁部内面に炭化物
254	Ⅲ地区	包含層	須恵器	有台杯		7.0		外－底ヘラ切りナデ		還硬	灰	
255	Ⅲ地区	包含層	須恵器	無台杯	11.0					還硬	灰	
256	Ⅲ地区	包含層	須恵器	無台杯	11.0					還硬	灰	
257	Ⅲ地区	包含層	須恵器	無台杯		8.0		外－底ヘラ切りナデ		還硬	青灰	
258	Ⅲ地区	包含層	須恵器	無台杯		8.4		外－底ヘラ切りナデ		還硬	灰	
259	Ⅲ地区	包含層	須恵器	長頸瓶				外－自然釉		還硬	灰	
260	Ⅲ地区	包含層	須恵器	壺		10.6				還硬	灰白	
261	Ⅲ地区	包含層	須恵器	壺		10.5				還硬	明青灰	底部外面に墨痕
262	Ⅲ地区	包含層	須恵器	壺		11.0			黒色吹出	還硬	灰	
263	Ⅲ地区	包含層	須恵器	甕				外－格子叩　内－平行当具		還硬		
264	Ⅲ地区	包含層	須恵器	甕				外－擬格子叩　内－同心円後平行当具		還硬		
265	Ⅲ地区	包含層	須恵器	甕				外－平行叩き　内－同土円当具		還硬	灰	
266	Ⅲ地区	包含層	須恵器	甕				外－擬格子叩き　内－同心円当具		還硬		
267	Ⅲ地区	包含層	珠洲	擂鉢	36.0			内－卸目	骨針	還硬	暗青灰	

報告書抄録

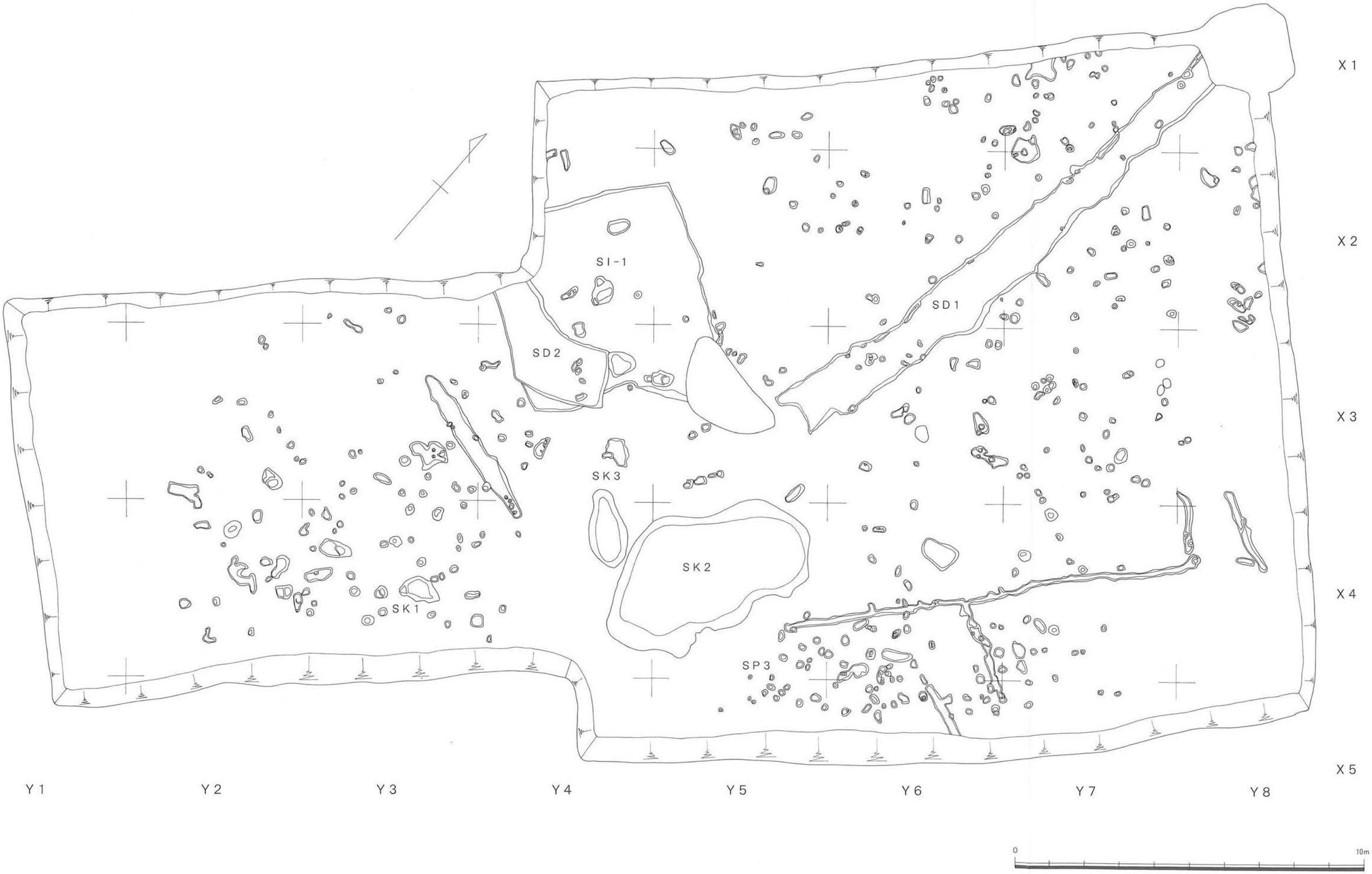
ふりがな	はただいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	畠田遺跡発掘調査報告書
副書名	県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査
シリーズ名	西山町文化財調査報告書第５集
編集者名	中島義人
編集機関	西山町教育委員会
所在地	〒949－4193　新潟県刈羽郡西山町大字池浦117－2
発行年月日	2001年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はただいせき 畠田遺跡	にいがたけんかりわぐんにしやままち 新潟県刈羽郡西山町 おおあざきたのあざはただ 大字北野字畠田	15505	171	37 25 47	138 39 13	19980519 ～ 19980929	2,100	県営担い手育成ほ場整備事業北野地区による

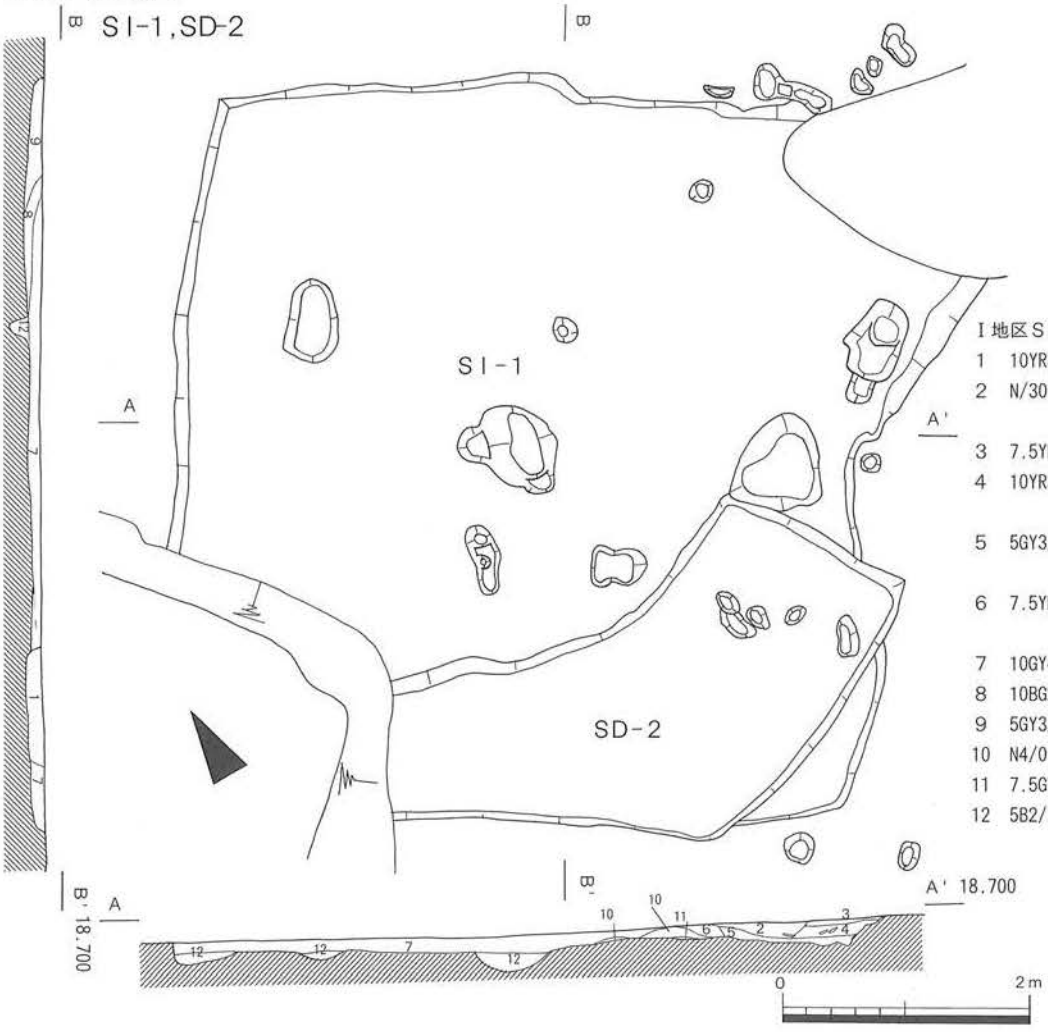
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畠田遺跡	散布地	古墳・古代	竪穴住居・柱穴・土坑・溝・畠	土師器・須恵器・石製品	須恵器・土師器を出土する古墳時代後期の集落跡

図　　版

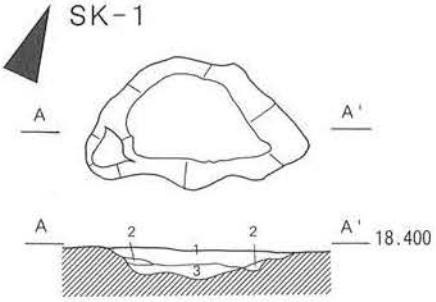
Ⅰ地区遺構全体図


X1
X2
X3
X4
X5
Y1
Y2
Y3
Y4
Y5
Y6
Y7
Y8
SI-1
SD1
SD2
SK1
SK2
SK3
SP3
0
10m

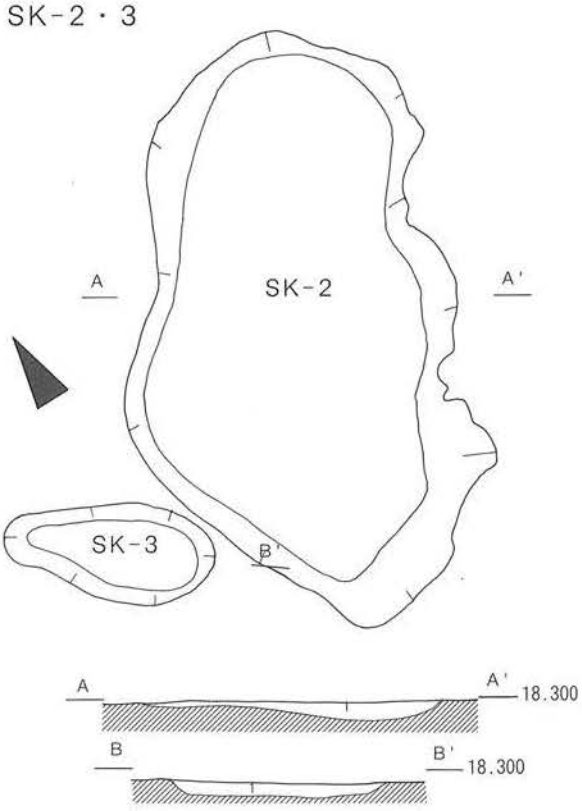
Ⅰ地区遺構図



Ⅰ地区ＳＩ１
1　10YR3/1　黒褐色粘質シルト
2　N/30　暗灰色粘質シルト
（炭化物少量含む）
3　7.5YR2/1　黒色粘質シルト
4　10YR3/1　黒褐色粘質シルト
（炭化物含む）
5　5GY3/1　暗オリーブ灰色土
（炭化物含む）
6　7.5YR3/1　黒褐色粘質シルト
（炭化物含む）
7　10GY4/1　暗緑灰色粘質シルト
8　10BG2/1　青黒色粘着シルト
9　5GY3/1　暗オリーブ灰色粘質シルト
10　N4/0　灰色粘質シルト
11　7.5GY4/1　暗緑灰色粘質シルト
12　5B2/1　青黒色粘質シルト



Ⅰ地区ＳＫ１
1　10YR2/1　黒色粘質シルト
2　10YR3/1　黒褐色粘質シルト
3　10YR5/1　褐灰色粘質シルト

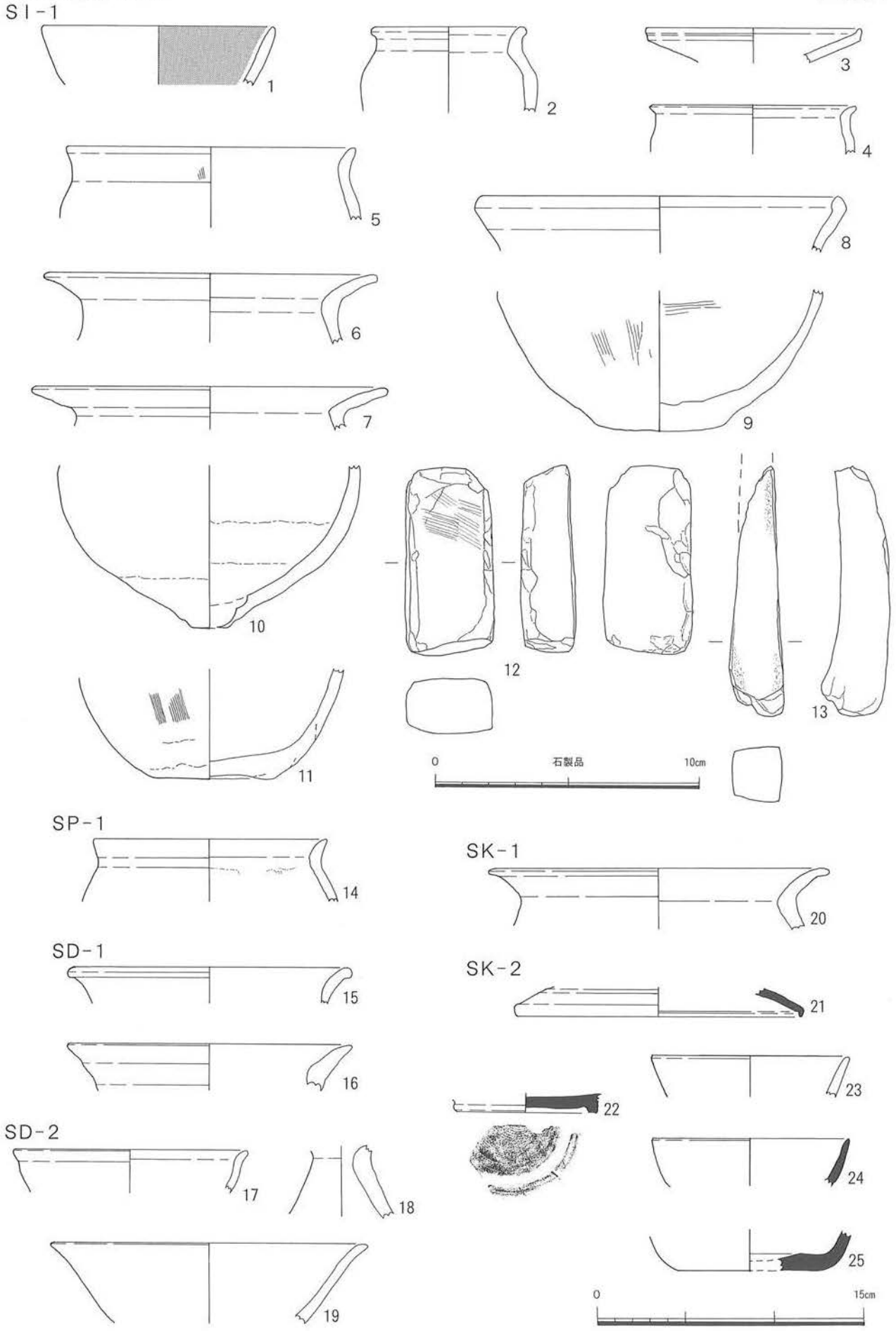


Ⅰ地区ＳＫ２
1　10YR3/1　黒褐色粘質シルト

Ⅰ地区ＳＫ３
1　10YR3/2　黒褐色粘質シルト

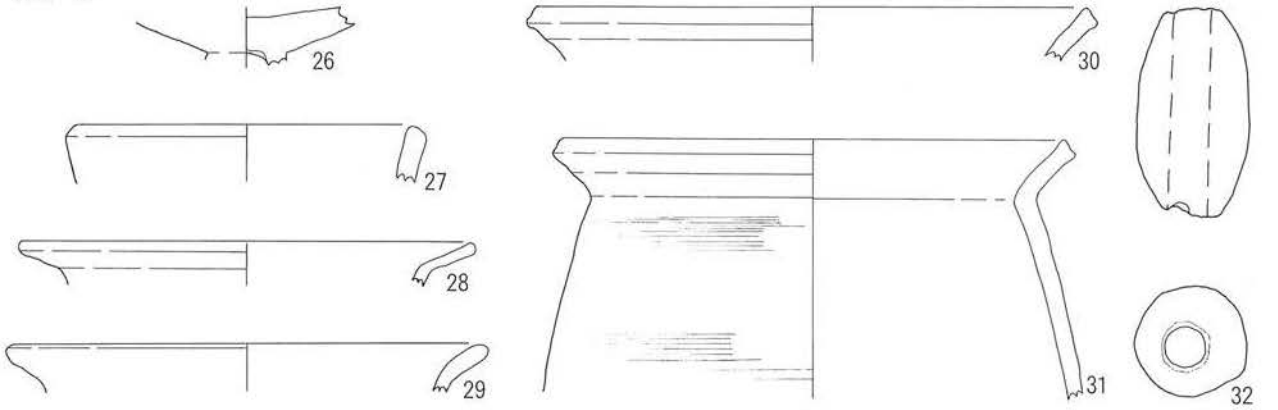
0　2m

Ⅰ地区遺物実測図


SI-1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
0
石製品
10cm
SP-1
14
SD-1
15
16
SD-2
17
18
19
SK-1
20
SK-2
21
22
23
24
25
0
15cm

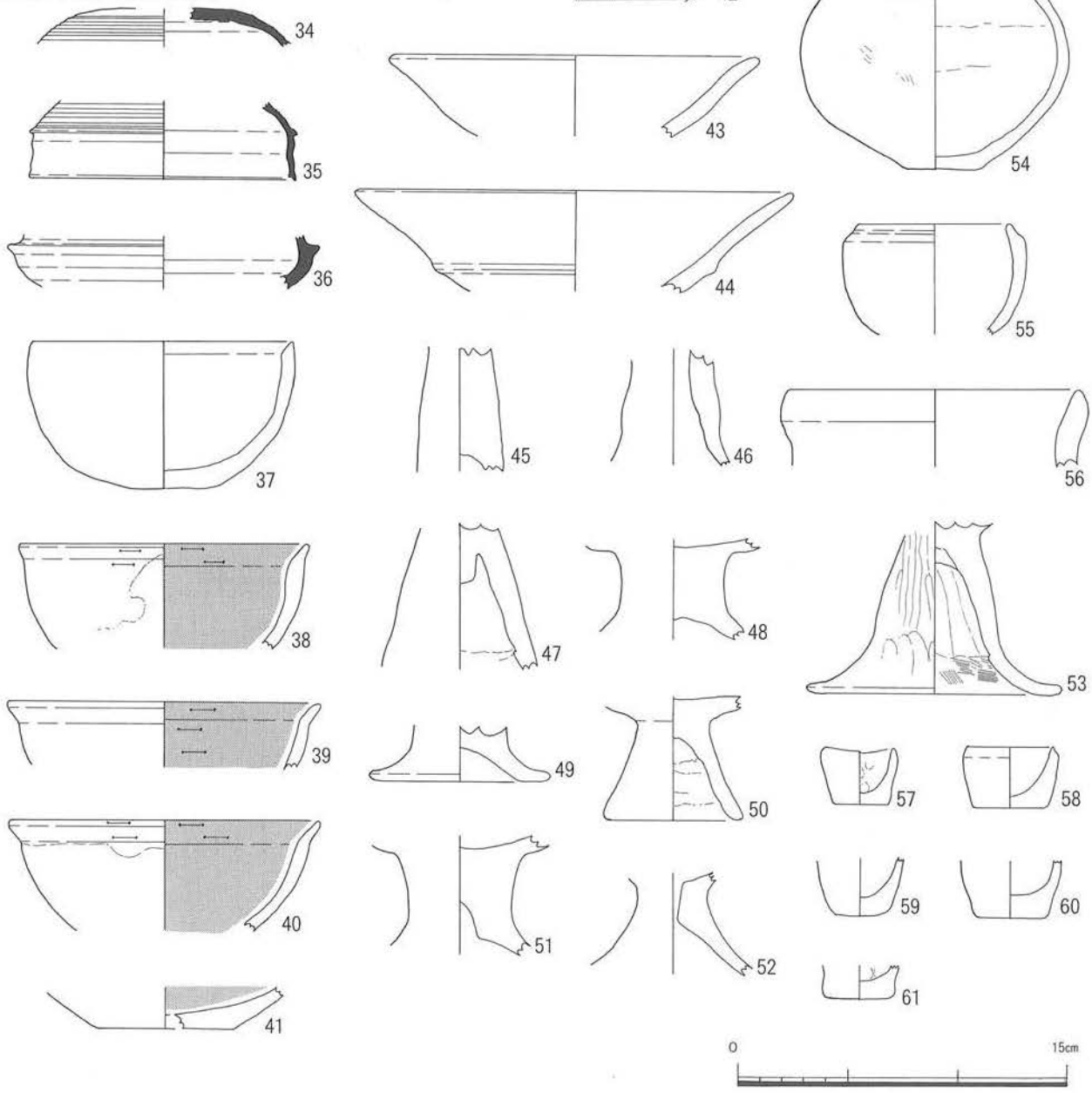
Ⅰ地区遺物実測図

SK-2



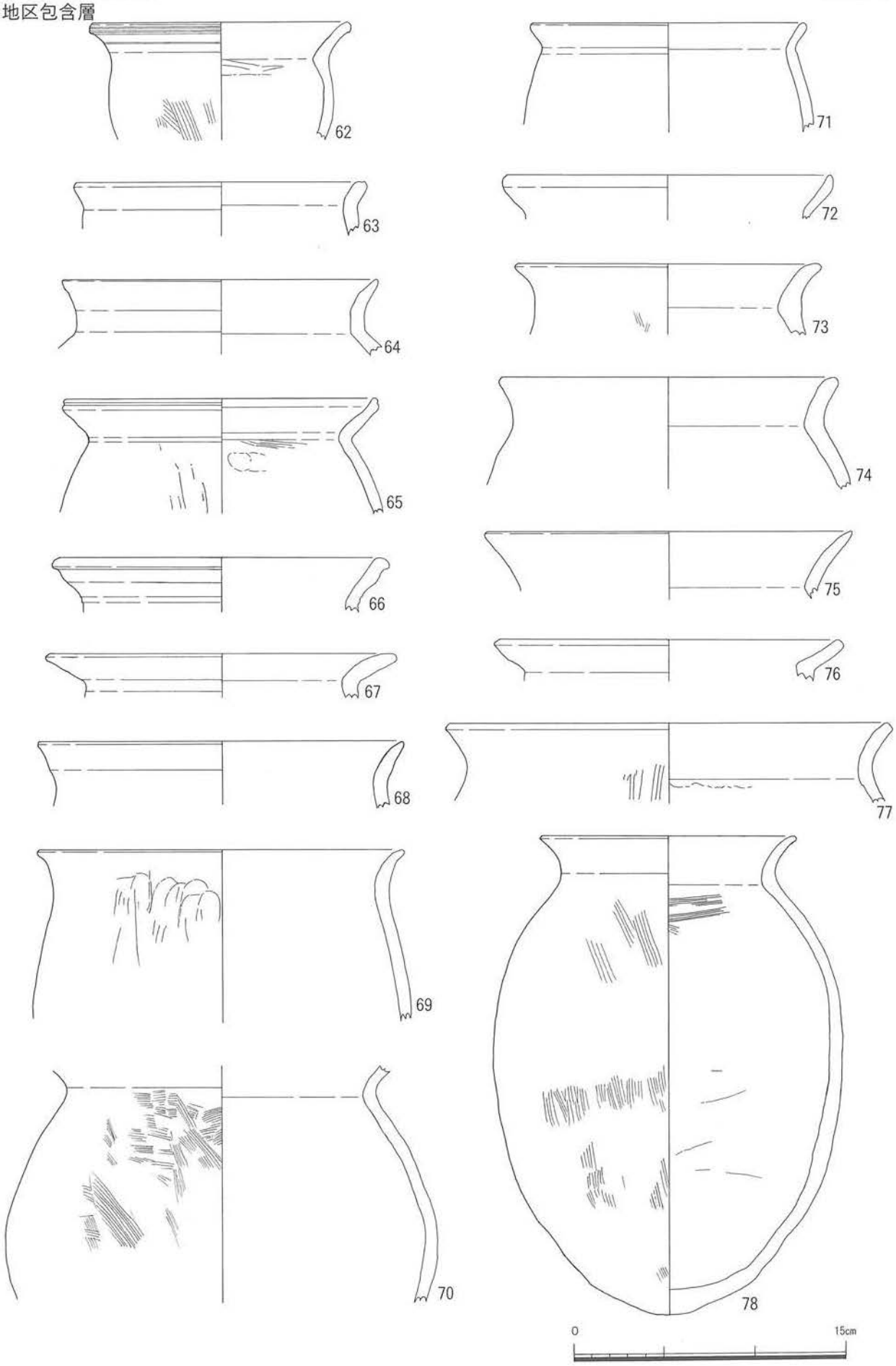
SK-3

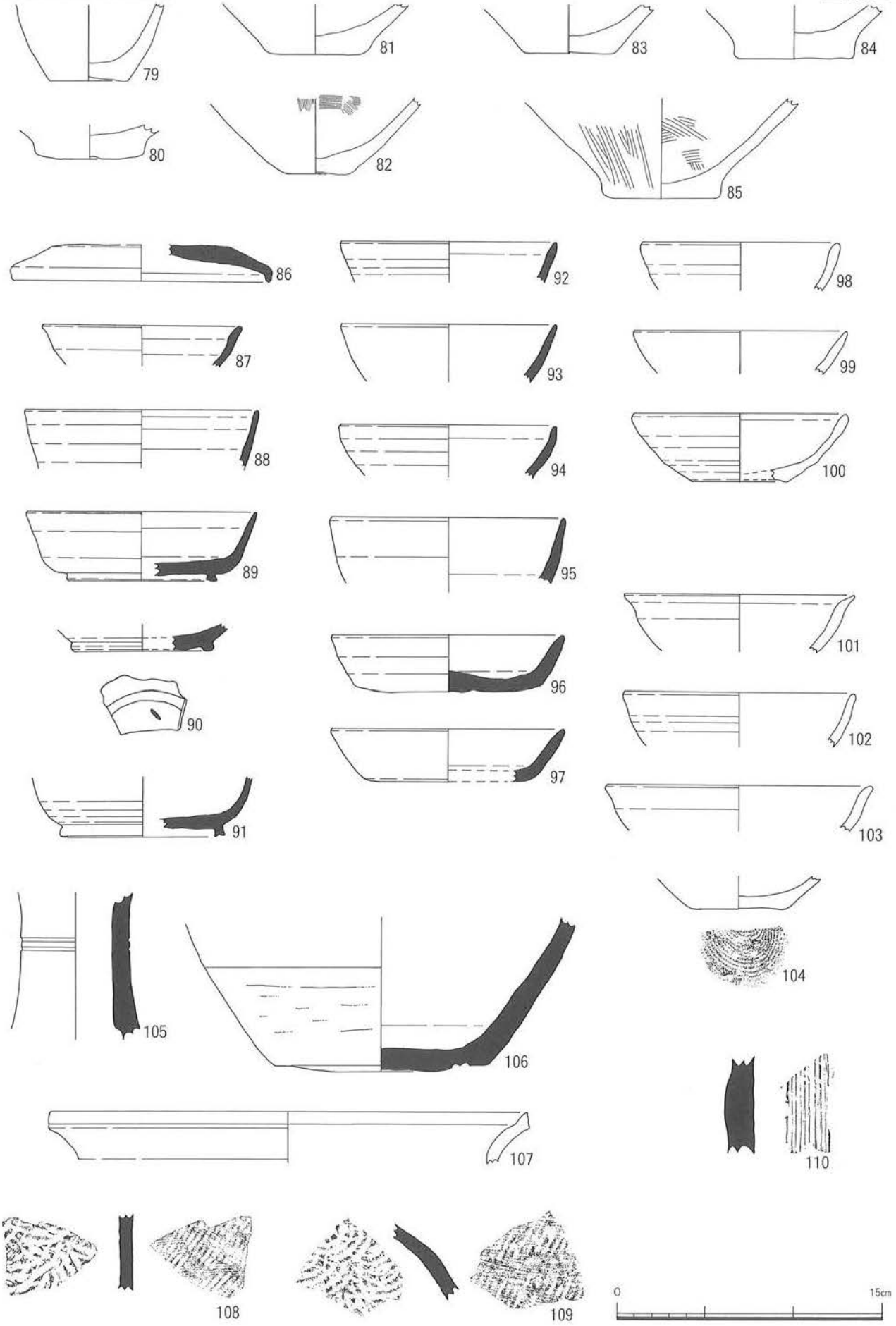
Ⅰ地区包含層出土遺物



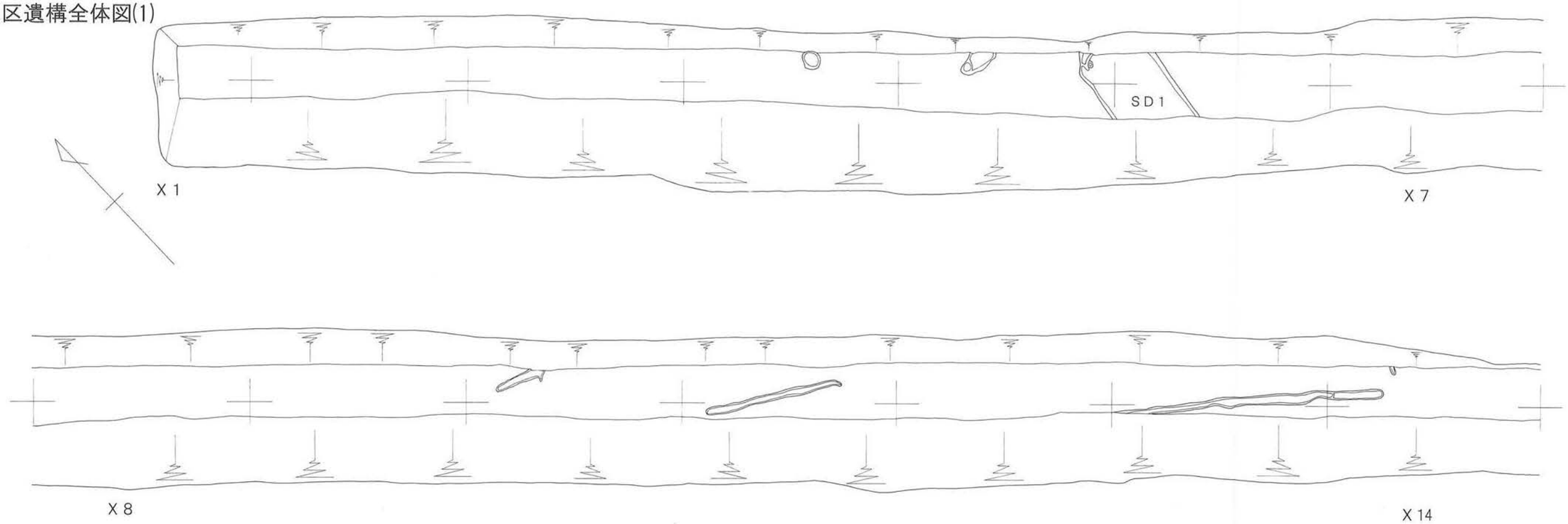
Ⅰ地区遺物実測図

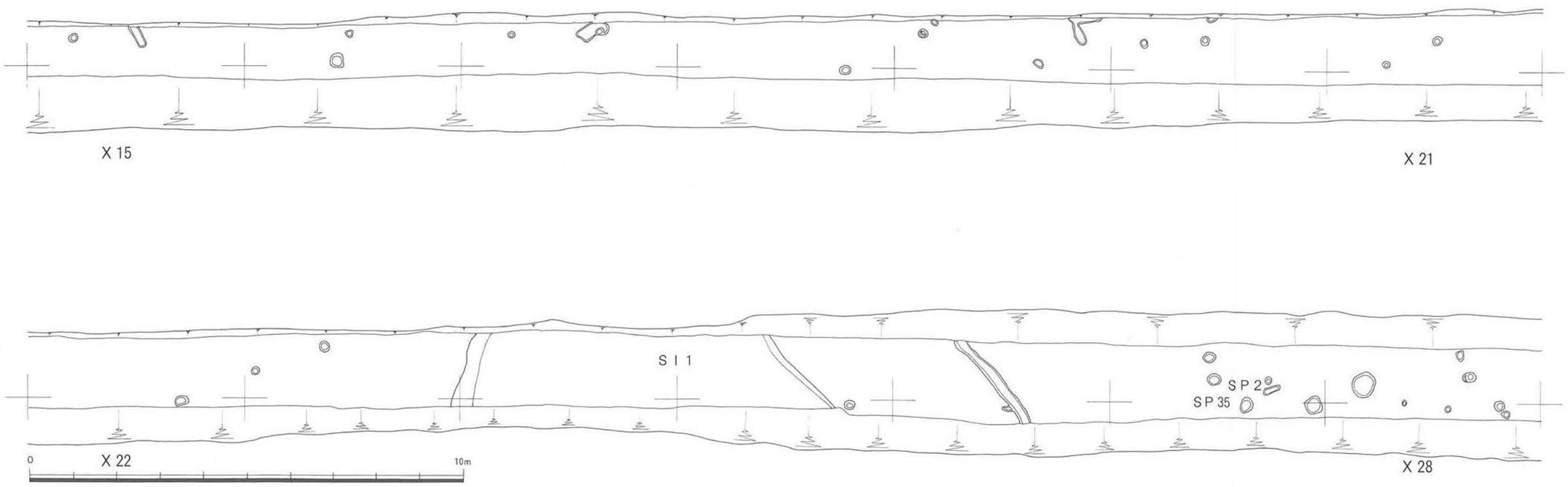
Ⅰ地区包含層

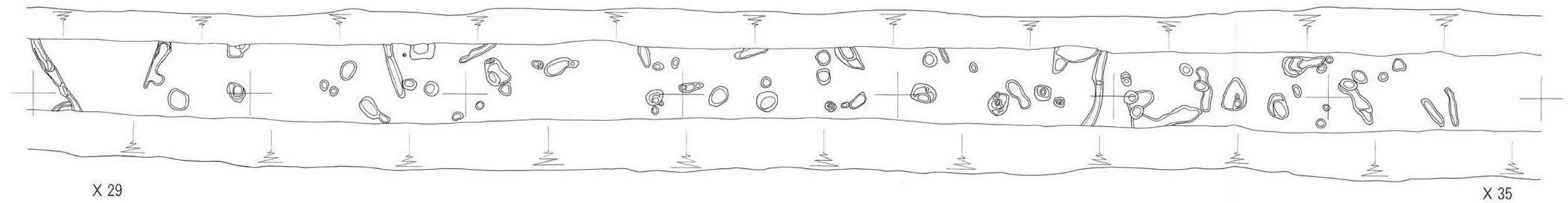


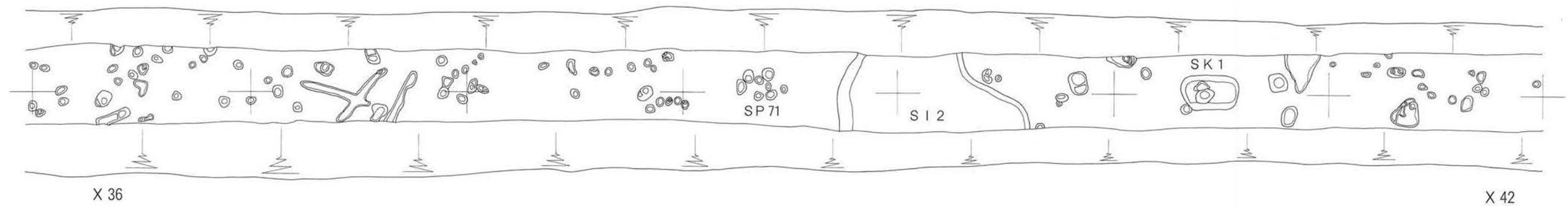

79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
0
15cm

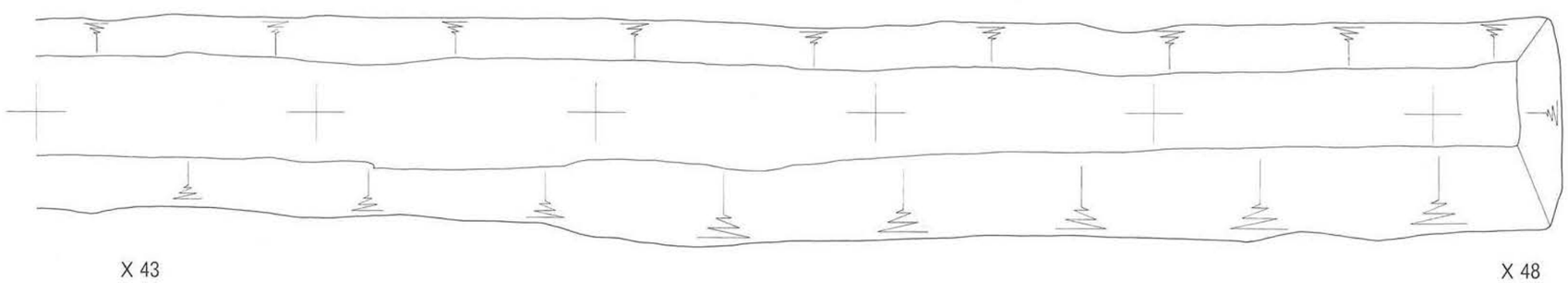
Ⅱ地区遺構全体図(1)

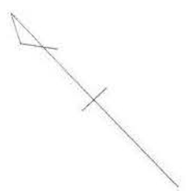




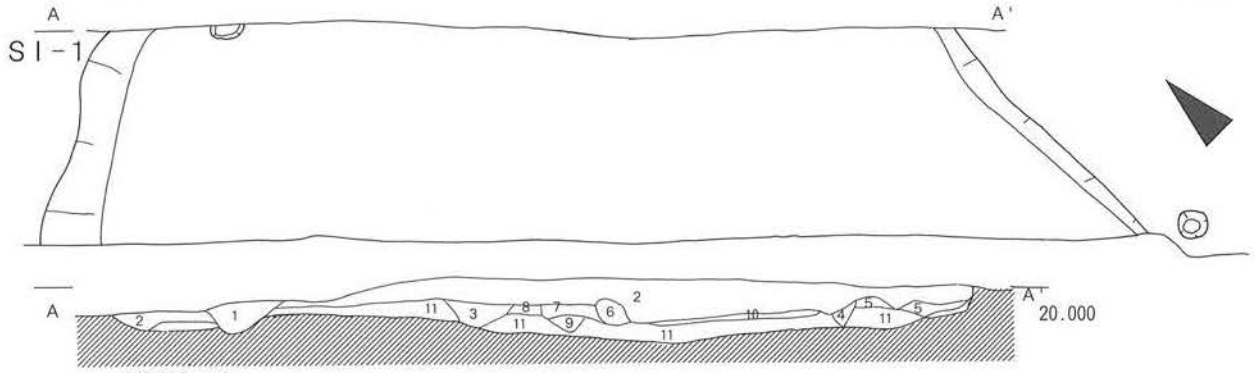

X 29
X 35


SP 71
S I 2
SK 1
X 36
X 42


X 43
X 48

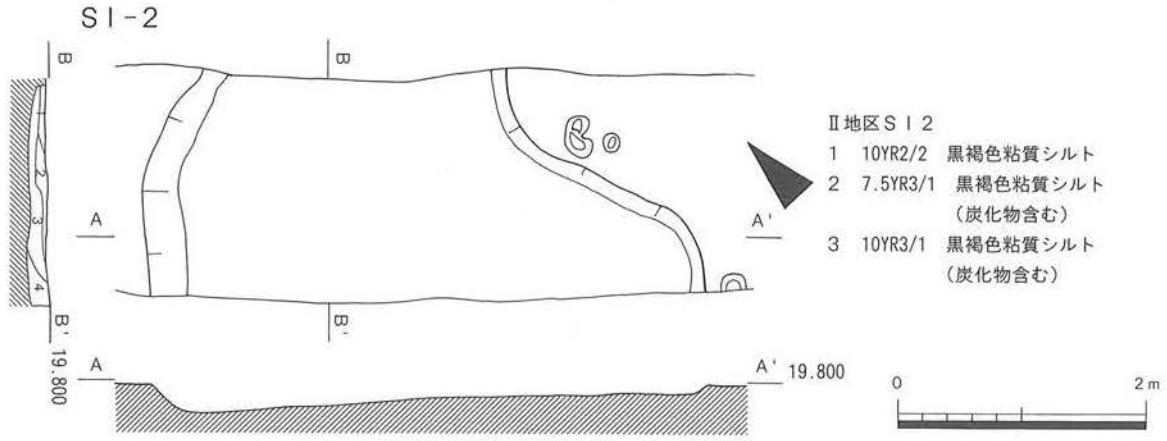


0
10m



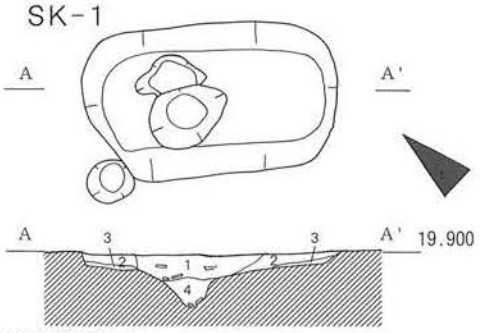
Ⅱ地区ＳＩ１

1　10YR3/1　黒褐色粘質シルト
2　10YR5/1　灰褐色粘質シルト（炭化物含む）
3　10YR4/1　灰褐色粘質シルト（炭化物含む）
4　10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト
5　10YR4/4　褐色粘質シルト
6　2.5Y4/4　オリーブ褐色粘質シルト
7　10YR4/4　褐色粘質シルト
8　10YR3/3　暗褐色粘質シルト
9　10YR5/2　灰黄褐色粘質シルト
10　10YR2/3　黒褐色粘質シルト
11　5BG4/1　暗青灰色粘質シルト



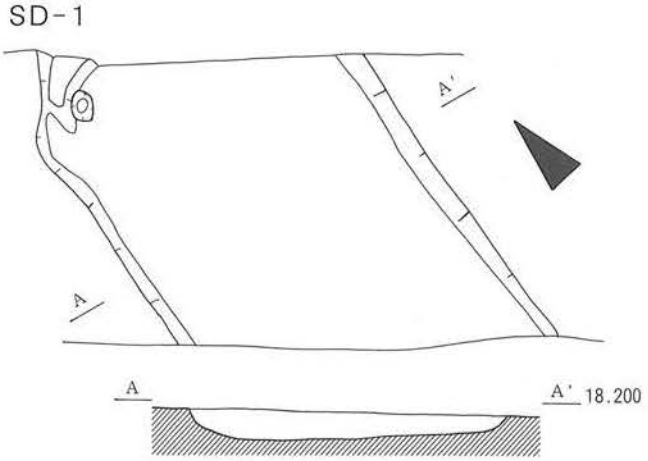
Ⅱ地区ＳＩ２

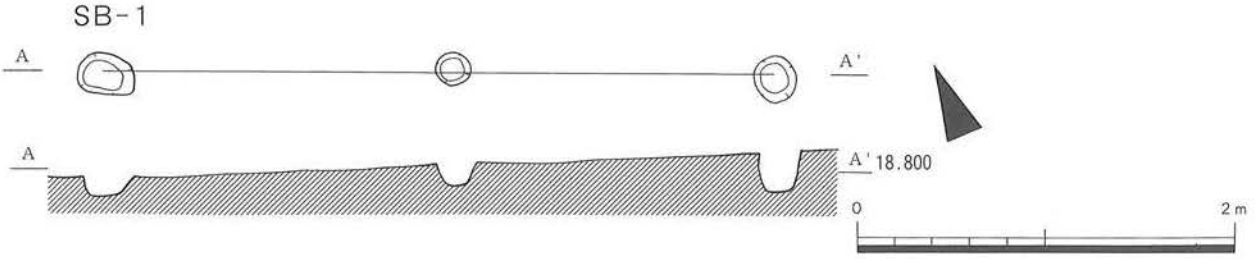
1　10YR2/2　黒褐色粘質シルト
2　7.5YR3/1　黒褐色粘質シルト（炭化物含む）
3　10YR3/1　黒褐色粘質シルト（炭化物含む）

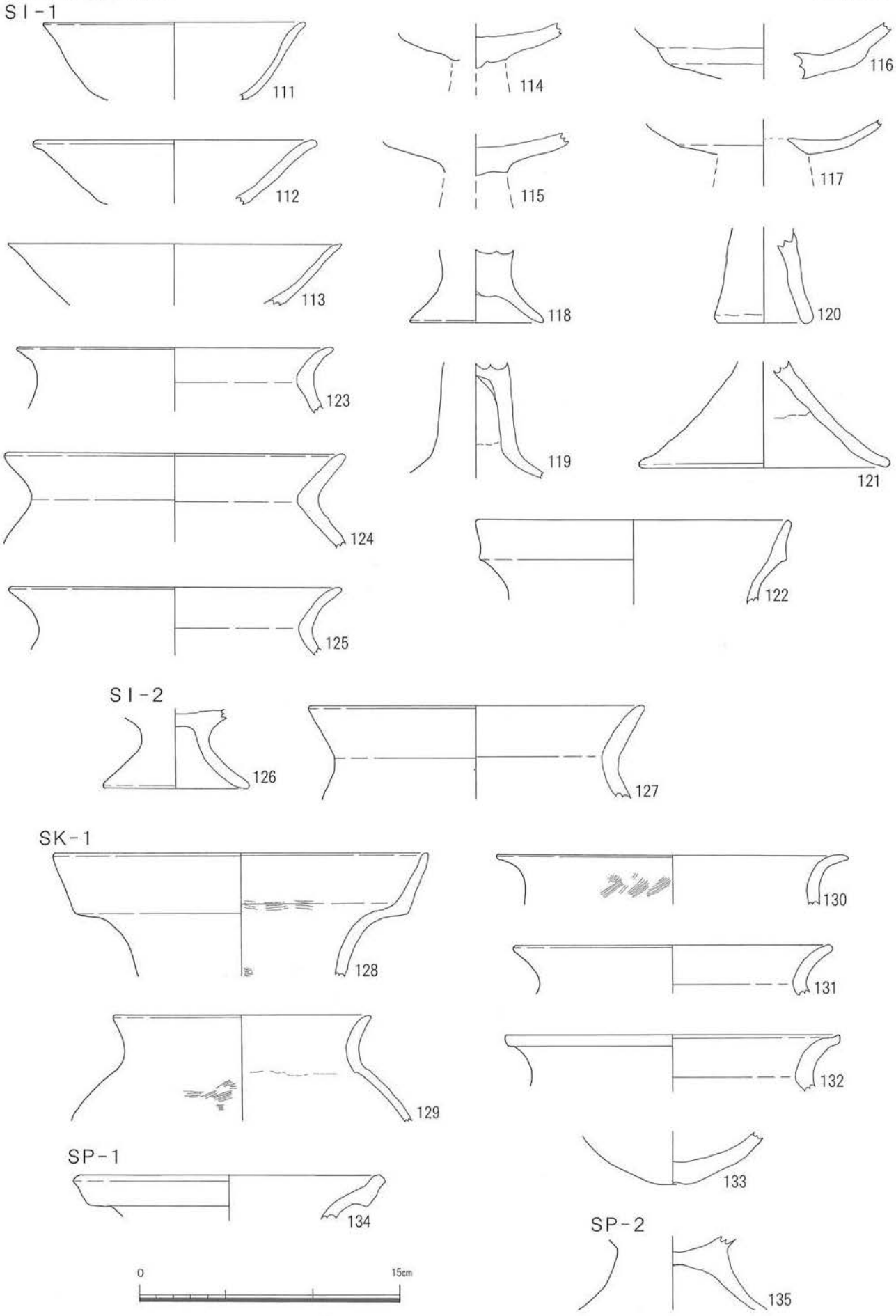


Ⅱ地区ＳＫ１

1　10YR7/1　黒色粘質シルト（炭化物少量含む）
2　10YR3/1　黒褐色粘質シルト（炭化物含む）
3　7.5YR4/1　褐灰色粘質シルト（炭化物少量含む）
4　10YR4/1　褐灰色粘質シルト（炭化物多く含む）



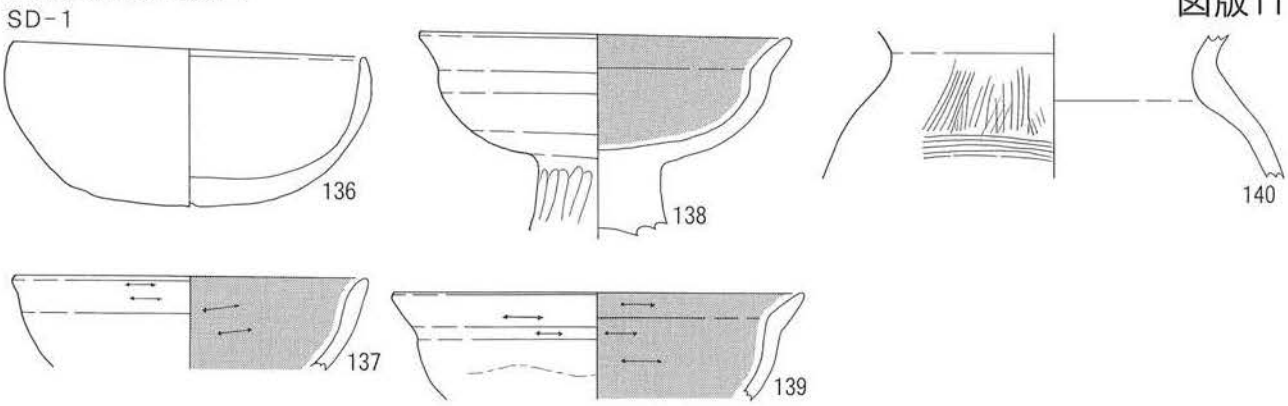



SI-1
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
SI-2
126
127
SK-1
128
129
130
131
132
133
SP-1
134
SP-2
135
0
15cm

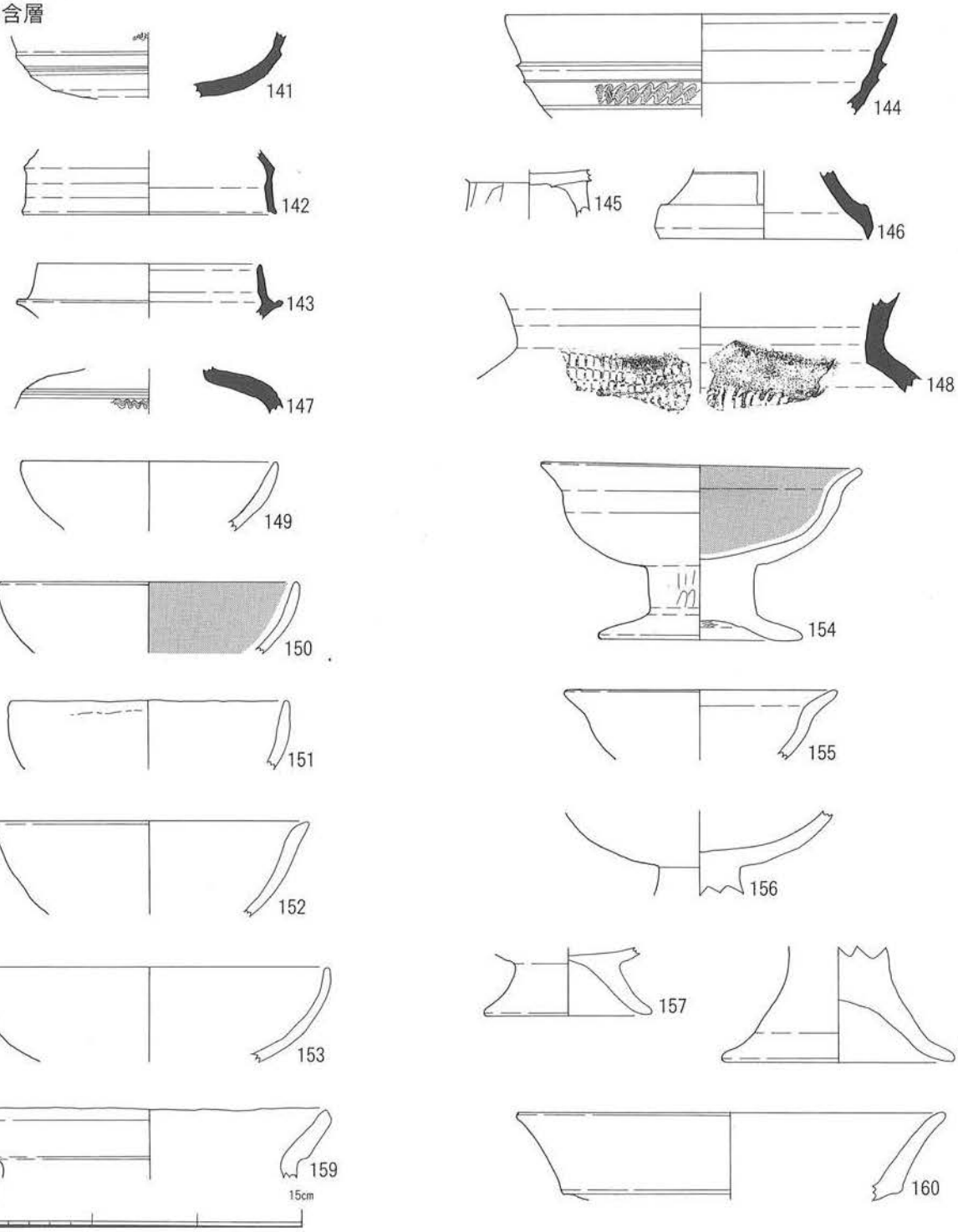
Ⅱ地区遺物実測図

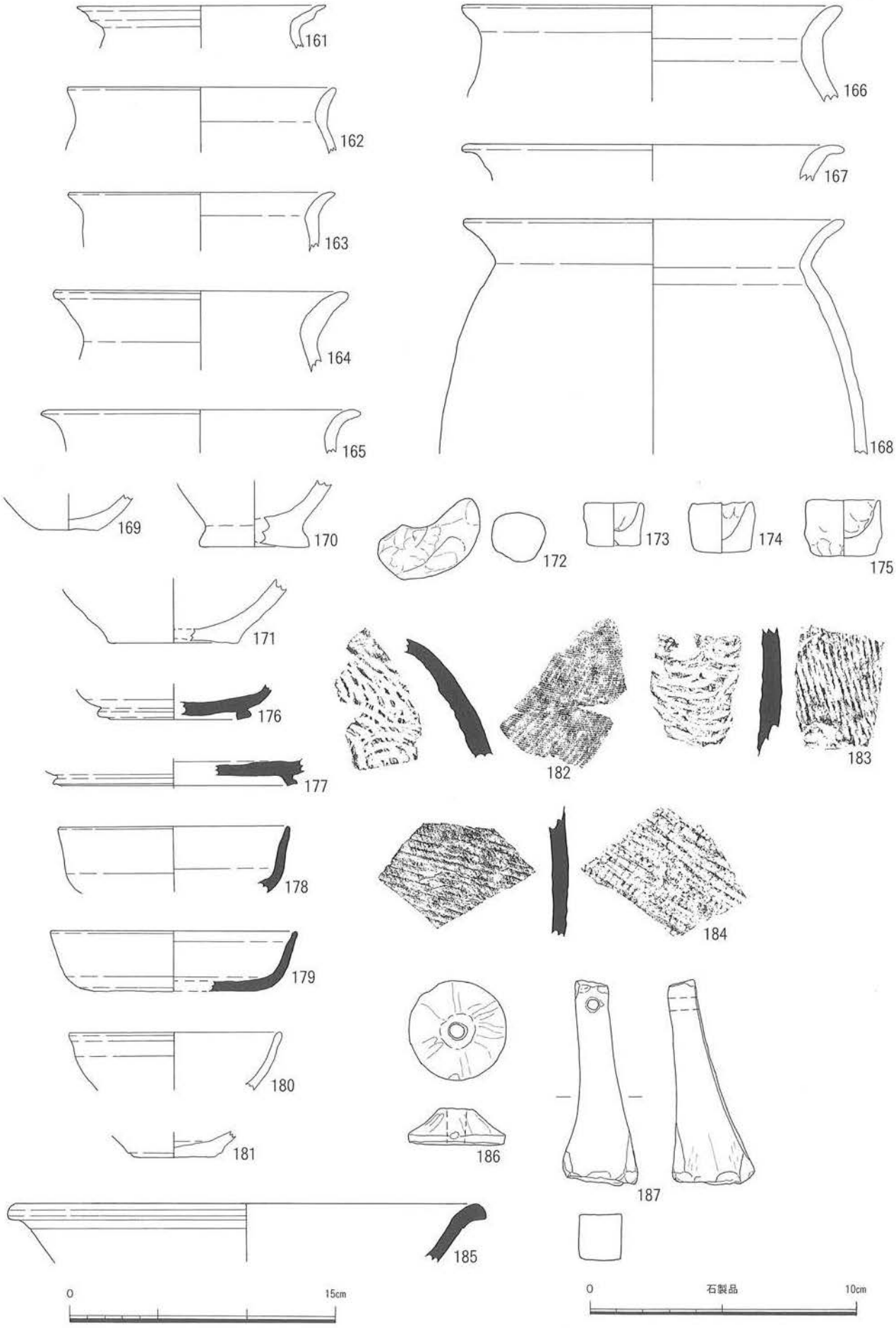
図版11

SD-1

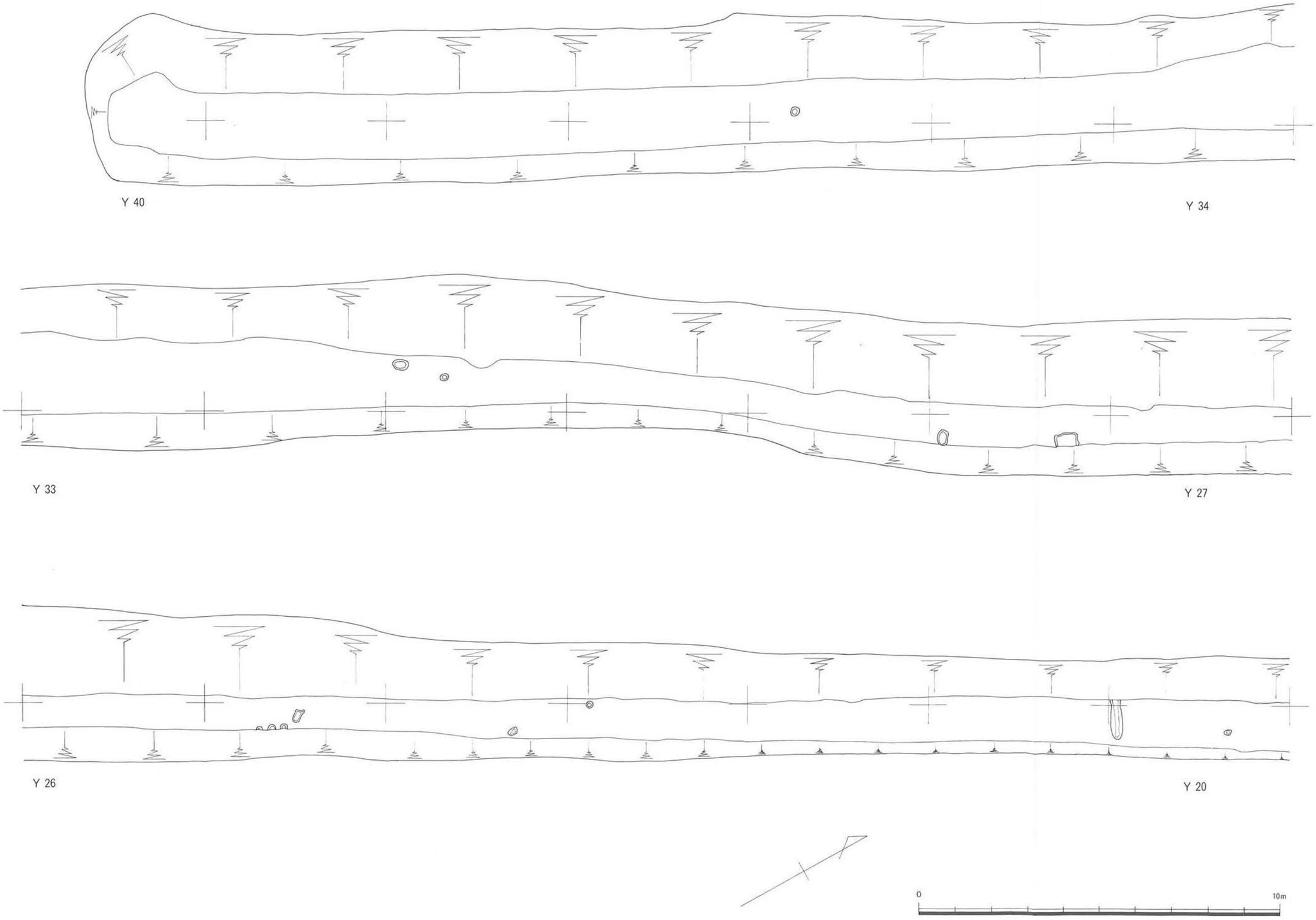


Ⅱ地区包含層

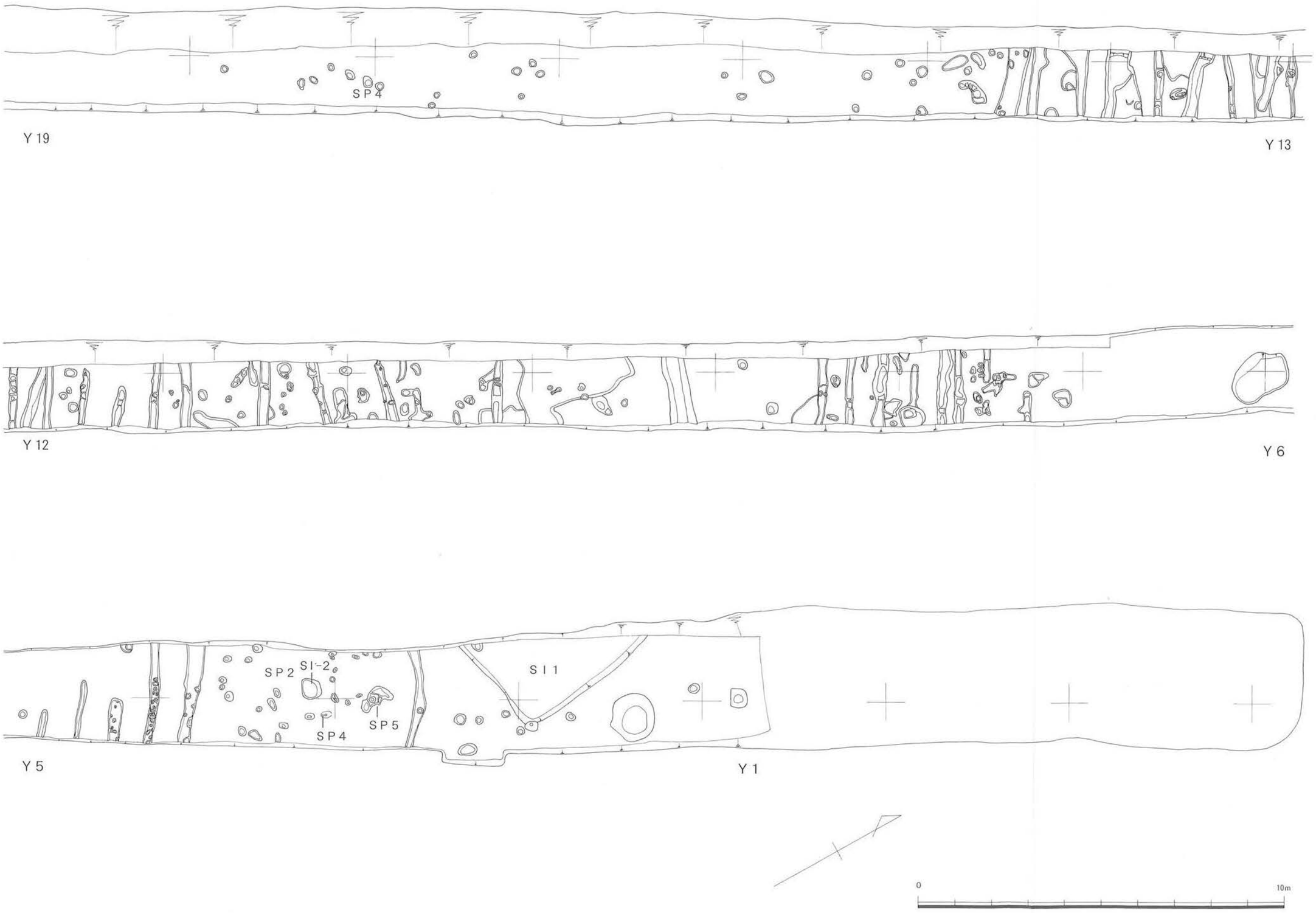



161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
0
15cm
0
石製品
10cm

Ⅲ地区遺構全体図(1)

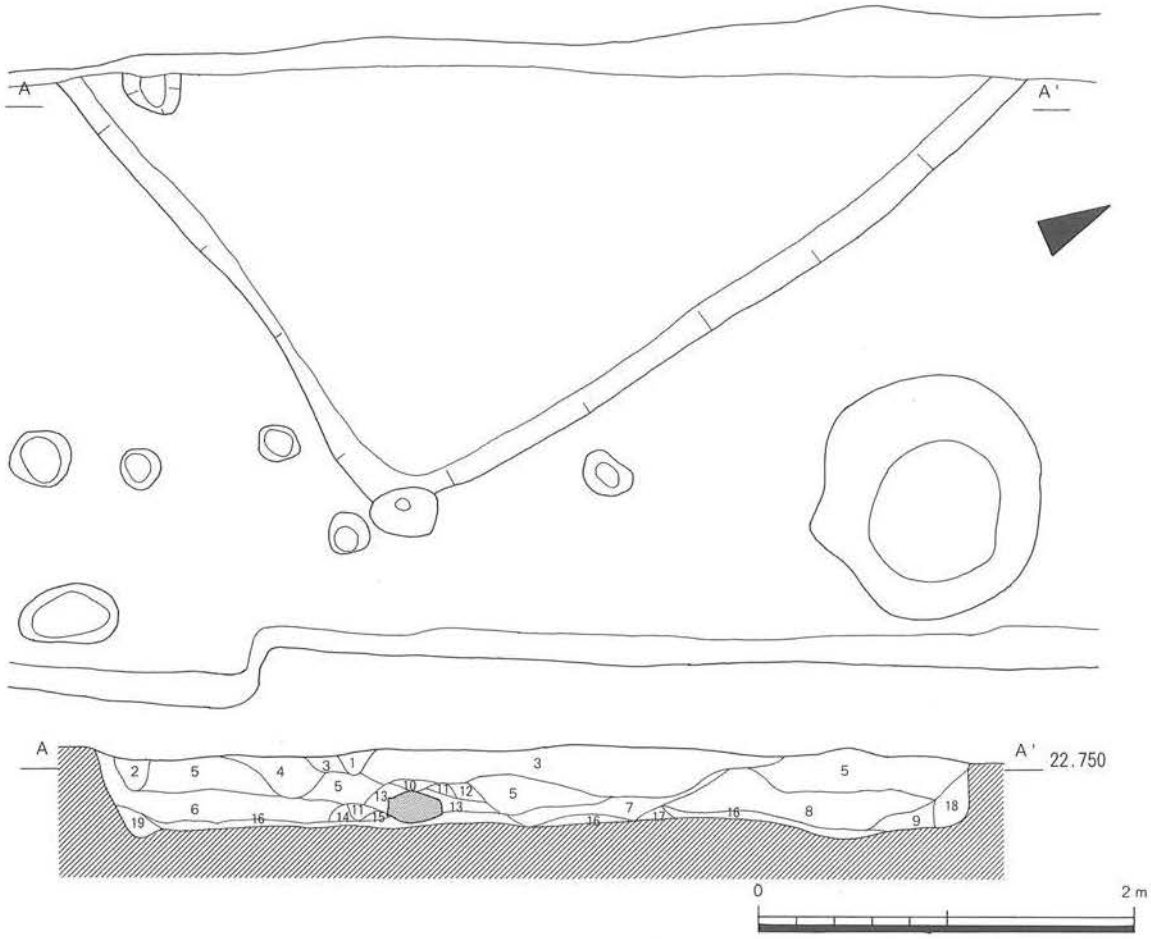


Ⅲ地区遺構全体図(2)



Ⅲ地区遺構図
ＳＩ－１

図版15

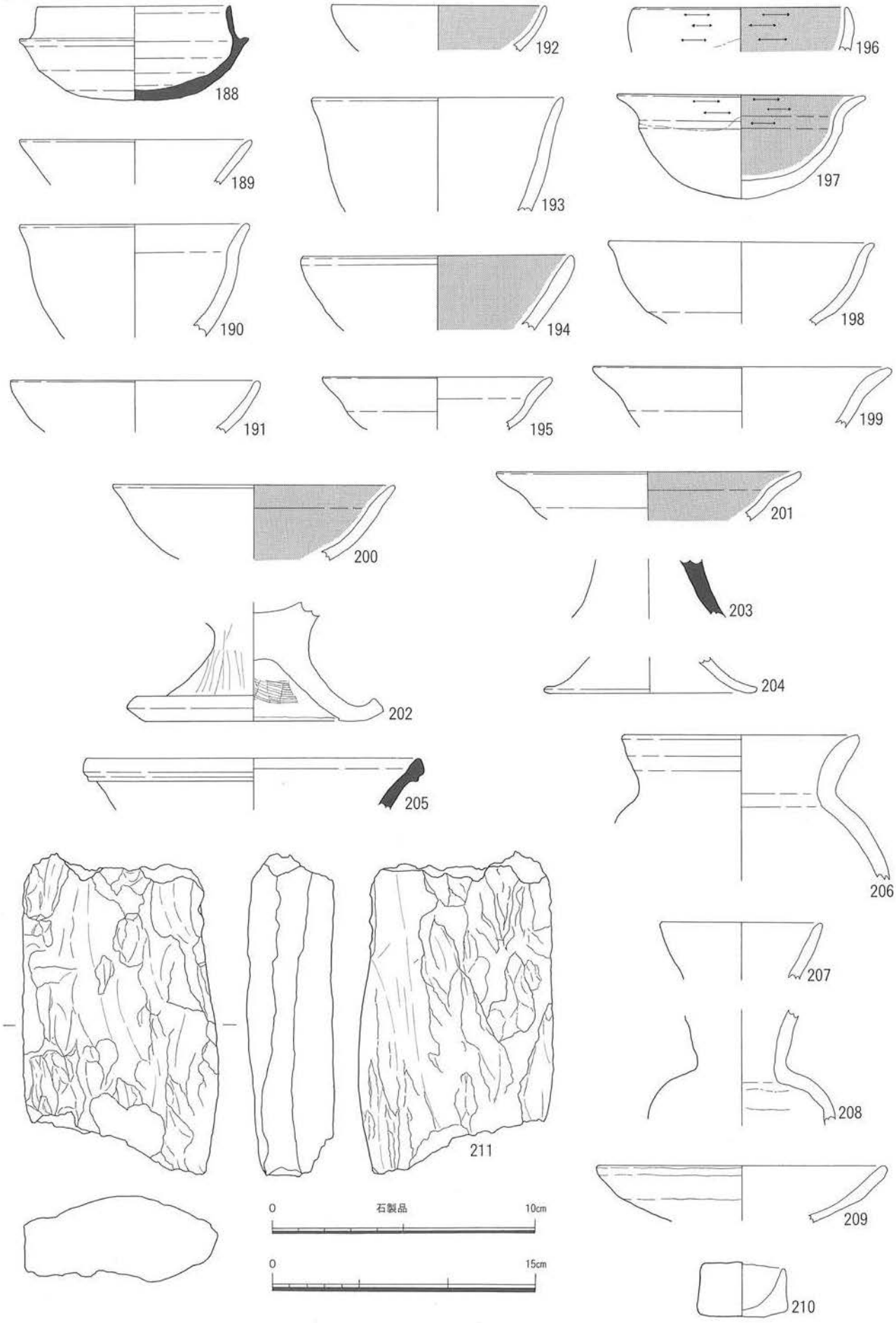


Ⅲ地区ＳＩ１

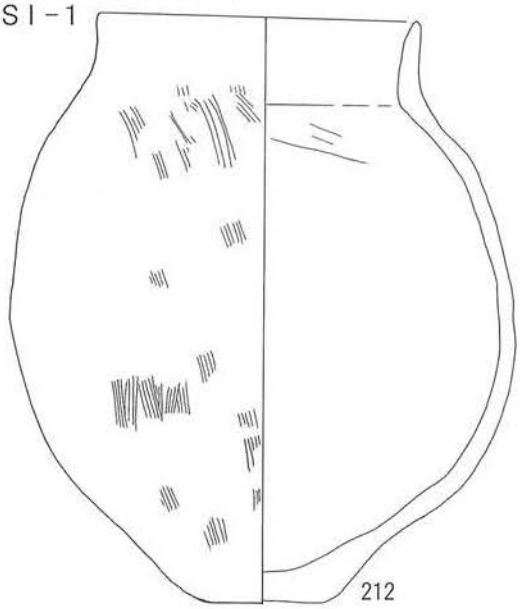
1　2.5Y6/1　黄灰色粘質シルト
2　2.5Y3/1　黒褐色粘質シルト
3　10YR6/6　暗黄褐色粘質シルト
4　10YR3/1　黒褐色粘質シルト
5　10YR6/2　灰黄褐色粘質シルト
6　2.5Y6/2　灰黄色粘質シルト
7　2.5Y2/1　黒色粘質シルト（炭化物多く含む）
8　10YR7/6　明黄褐色粘質シルト
9　10YR6/3　にぶい黄橙色粘質シルト
10　2.5Y4/1　黄灰色粘質シルト
11　2.5Y8/3　淡黄色粘質シルト
12　10YR6/1　褐灰色粘質シルト
13　2.5Y5/1　黄灰色粘質シルト
14　N5/1　灰色粘質シルト
15　2.5Y6/1　黄灰色粘質シルト
16　10YR6/1　灰黄色粘質シルト
17　10YR6/2　灰黄褐色粘質シルト
18　7.5Y5/1　褐灰色粘質シルト（炭化物少量含む）
19　10YR3/2　黒褐色粘質シルト

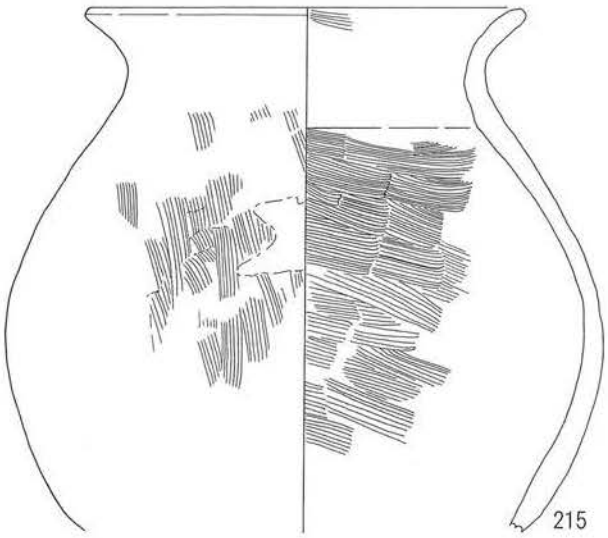
Ⅲ地区遺物実測図
SI-1

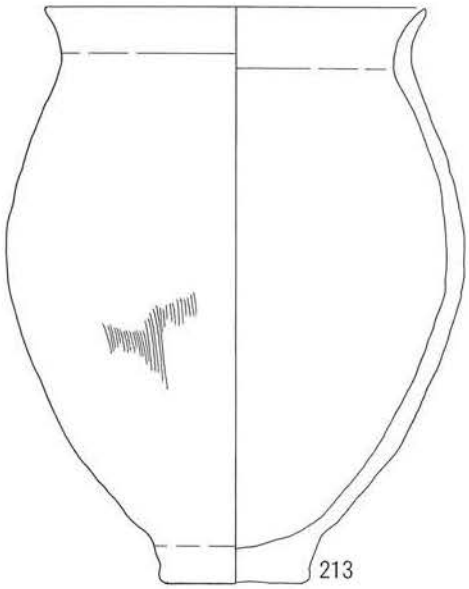
図版16

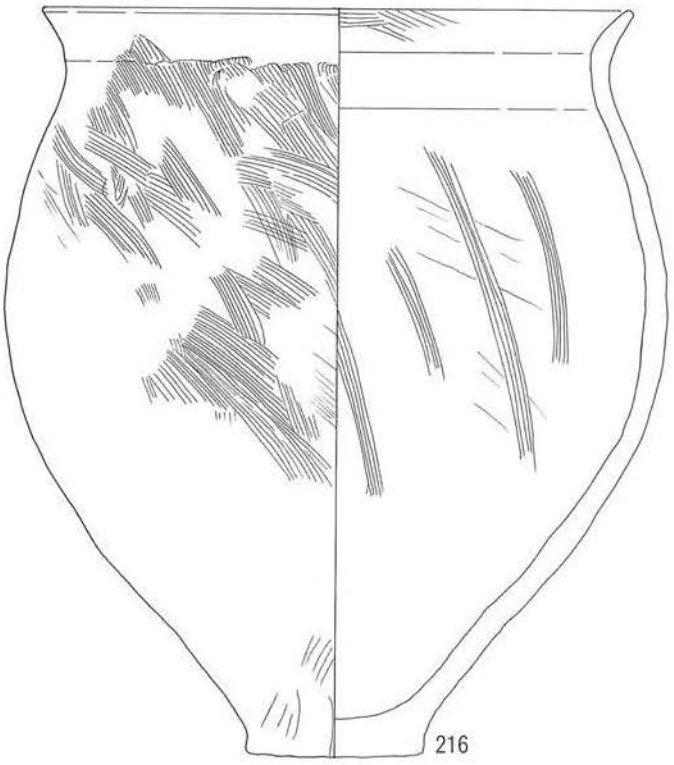


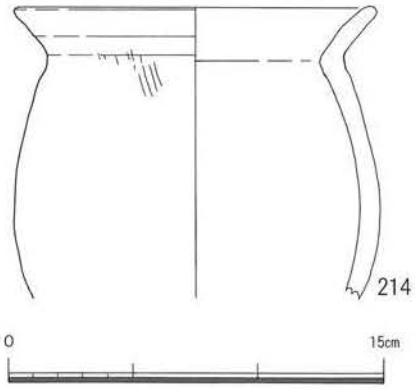
SI-1

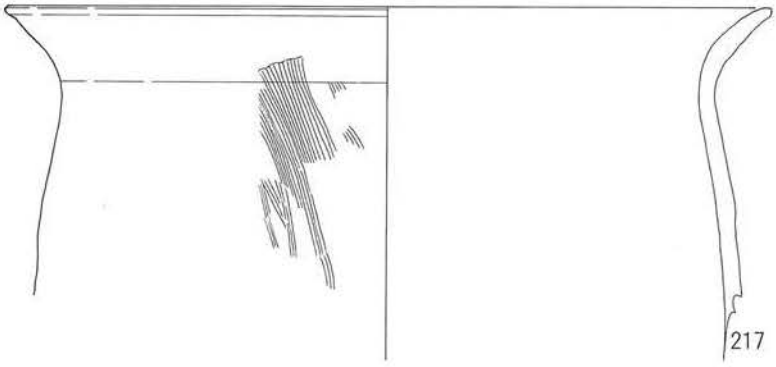


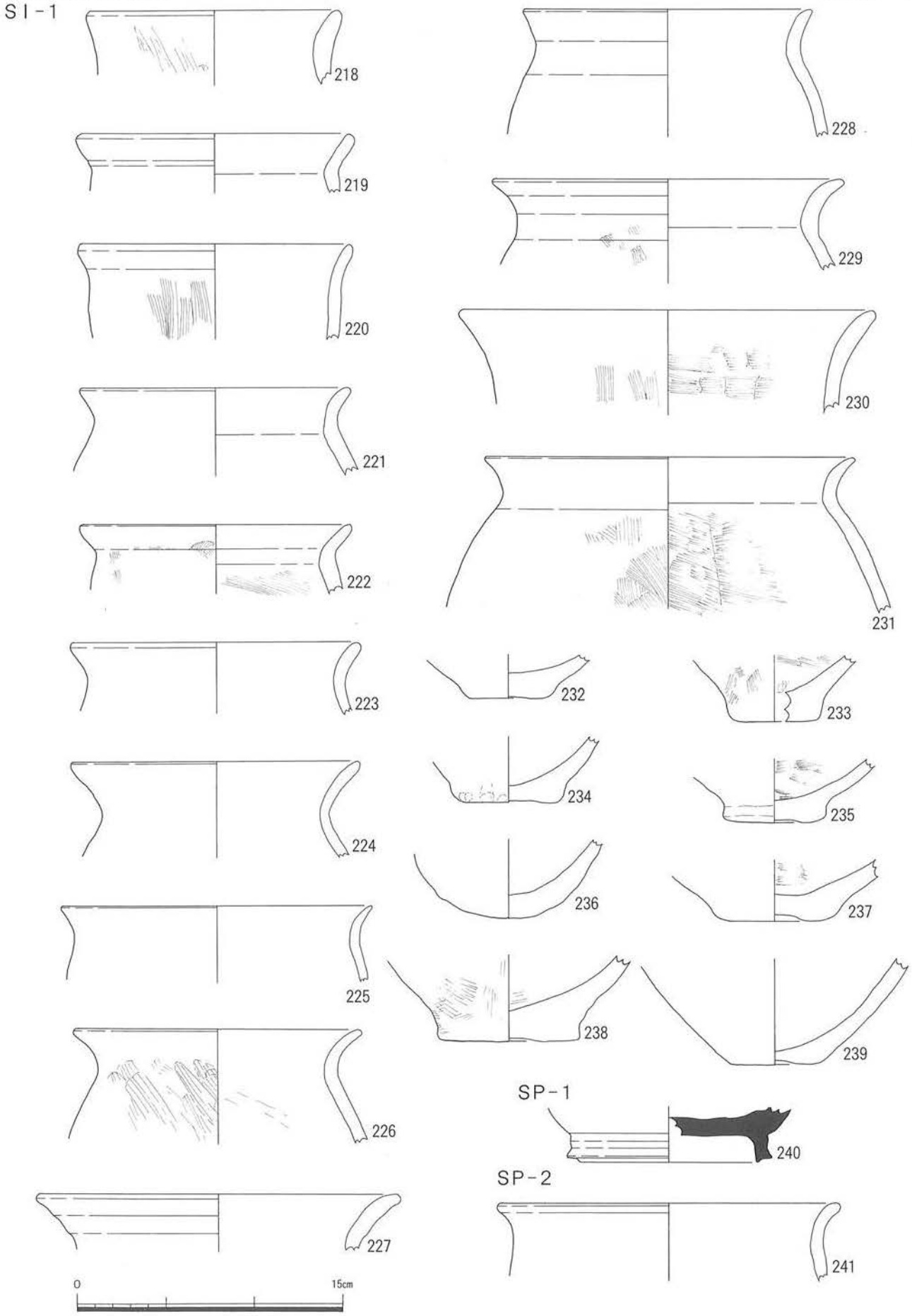








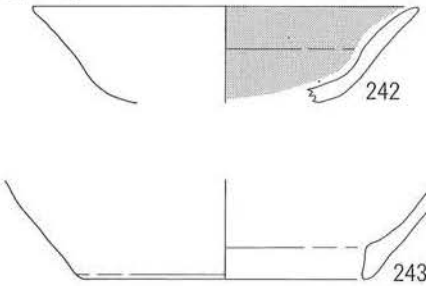



SI-1
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
SP-1
240
SP-2
241
0
15cm

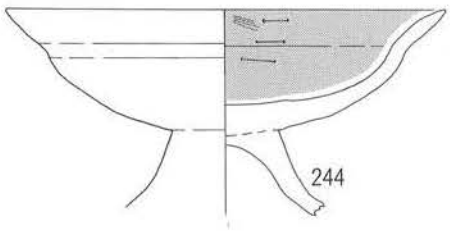
Ⅲ地区遺物実測図

図版19

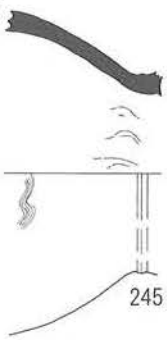
SP-3



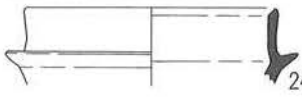
SP-4

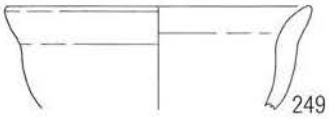


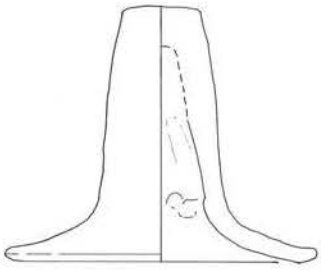
SP-5

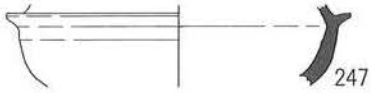


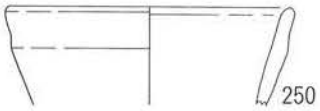
Ⅲ地区包含層出土遺物

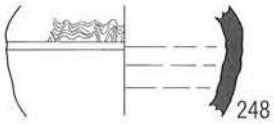


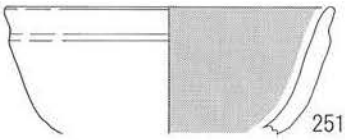


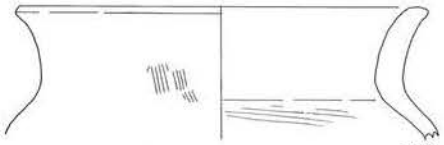


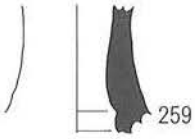


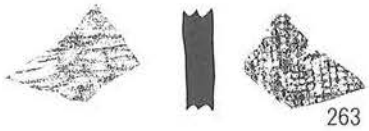


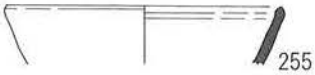


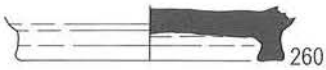


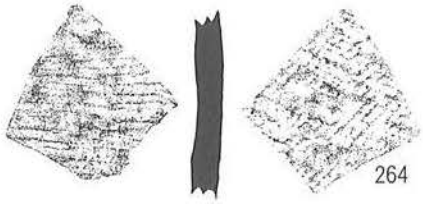


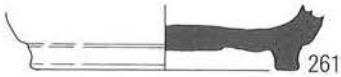


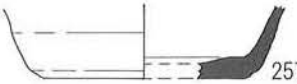


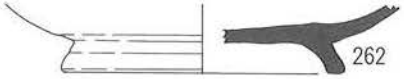


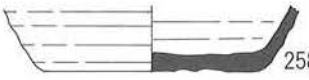


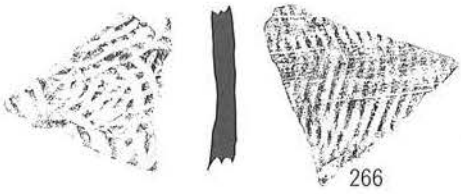


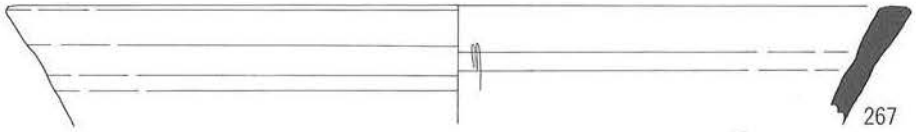












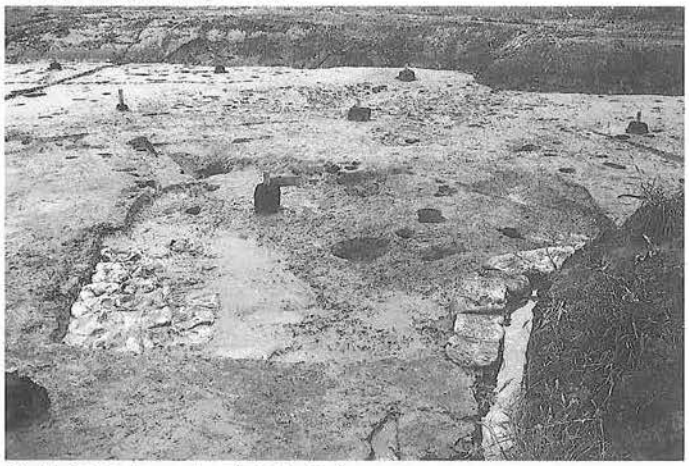
遺跡全景（北から）

Ⅰ地区全景（右上が北）

図版21

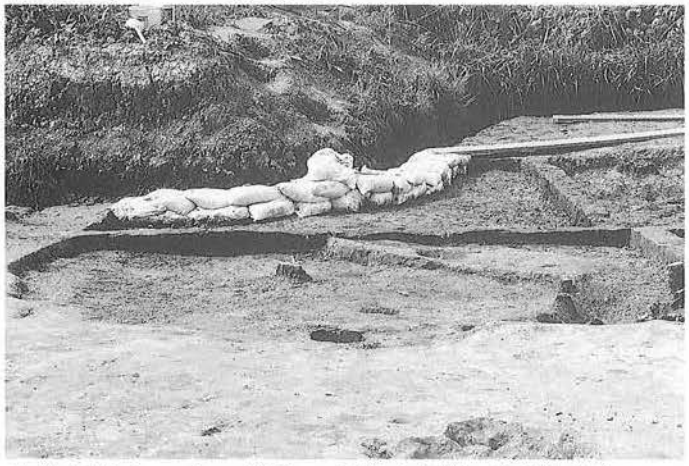
Ⅰ地区近景（北から）

Ⅰ地区SD－1（北から）

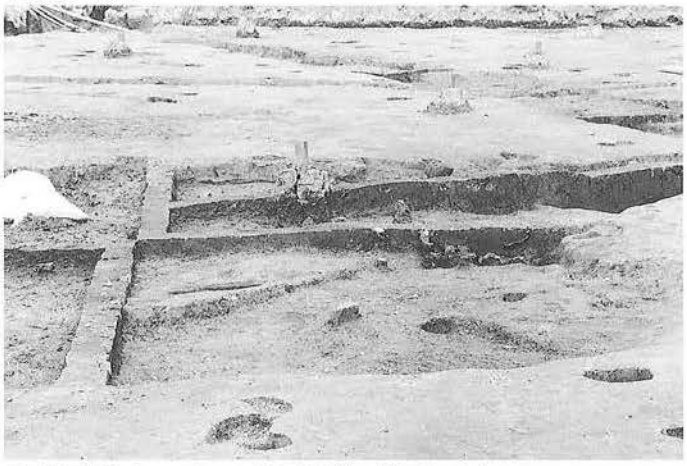


Ⅰ地区SⅠ－1（西から）

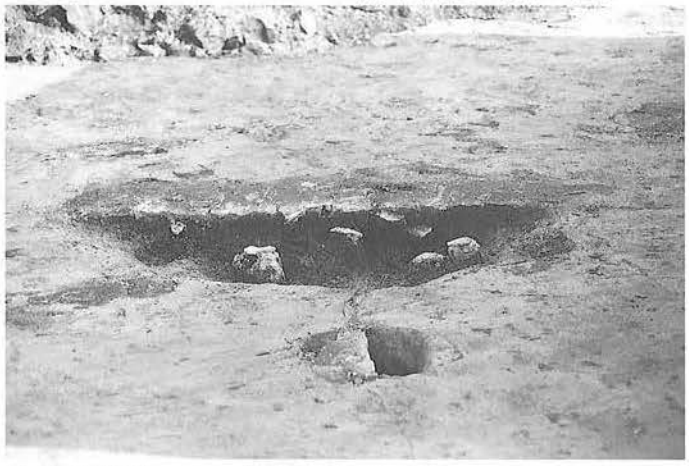
Ⅰ地区SⅠ－1



Ⅰ地区SⅠ－1・SD－2南北層位（東から）



Ⅰ地区SⅠ－1　東西層位（南から）

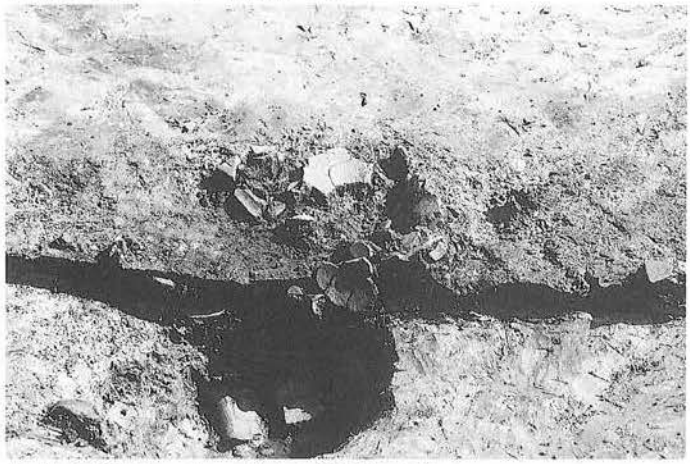


Ⅰ地区SK－1　層位（西から）

Ⅰ地区遺物（70・78）出土状況

Ⅱ地区ＳＩ－１（南から）

Ⅱ地区ＳＤ－１　出土遺物（136）（南から）

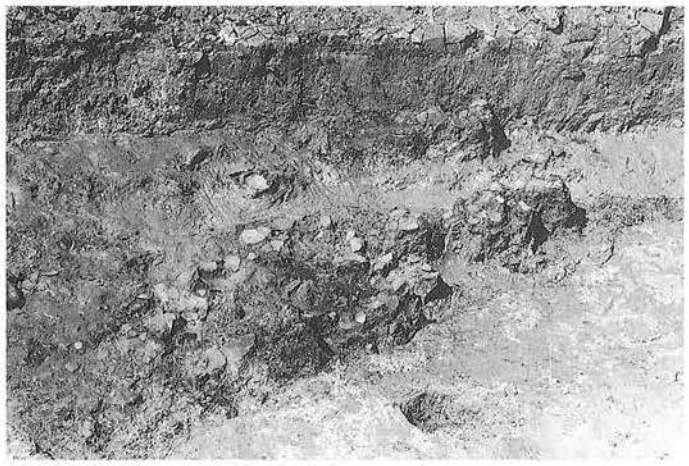


Ⅱ地区ＳＫ－１　上層（南から）

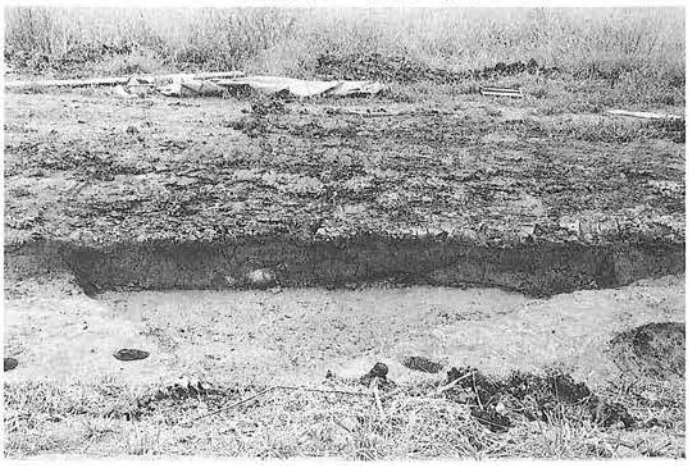
Ⅱ地区ＳＫ－１　下層

Ⅱ地区ＳＢ－１（北から）

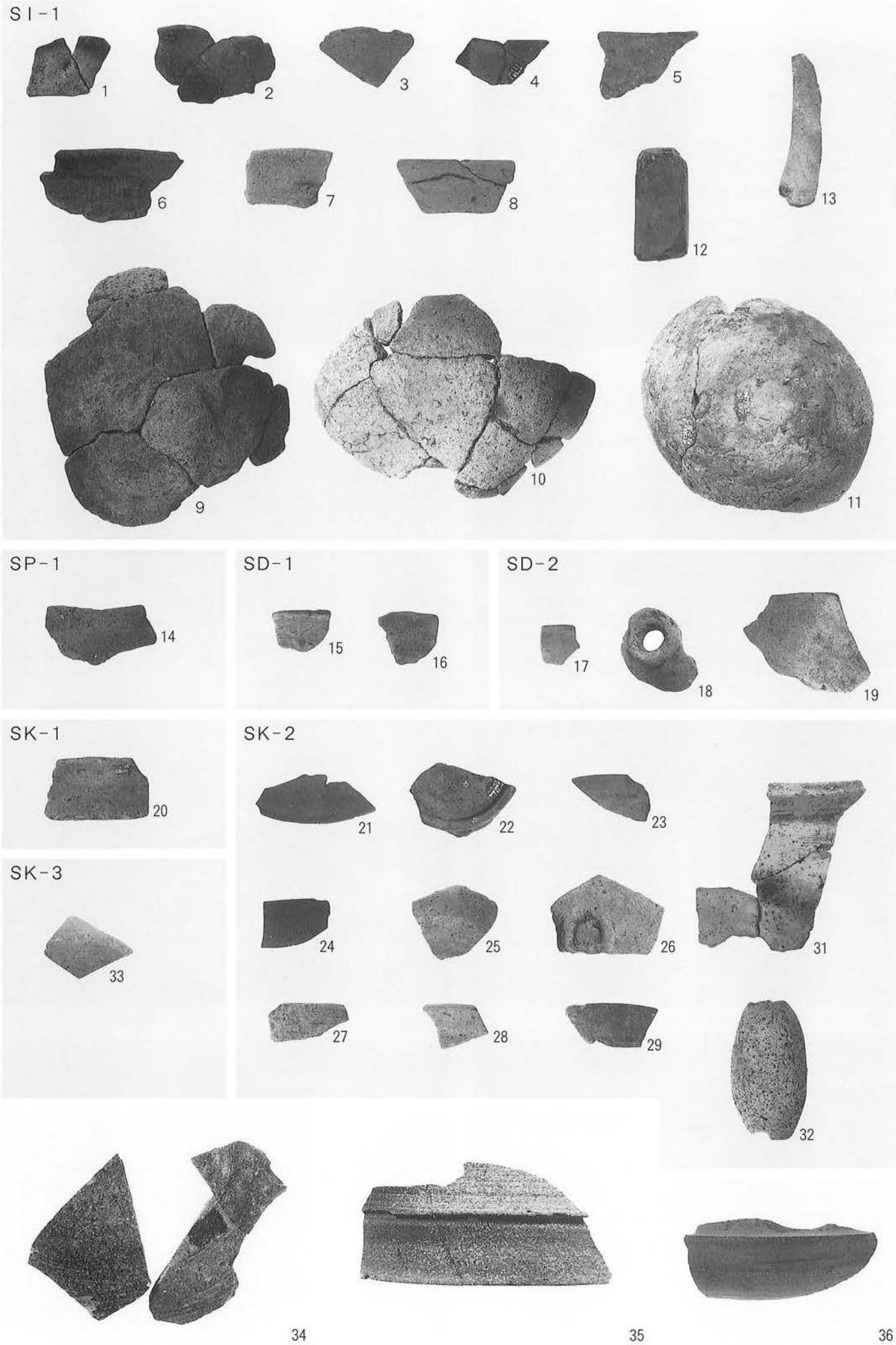
Ⅱ地区ＳＩ－１　遺物出土状況（西から）



Ⅱ地区ＳＩ－１（東から）

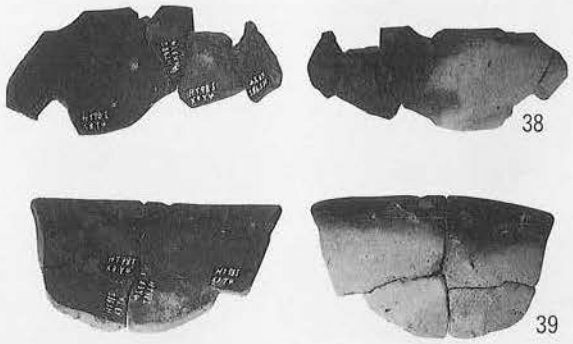


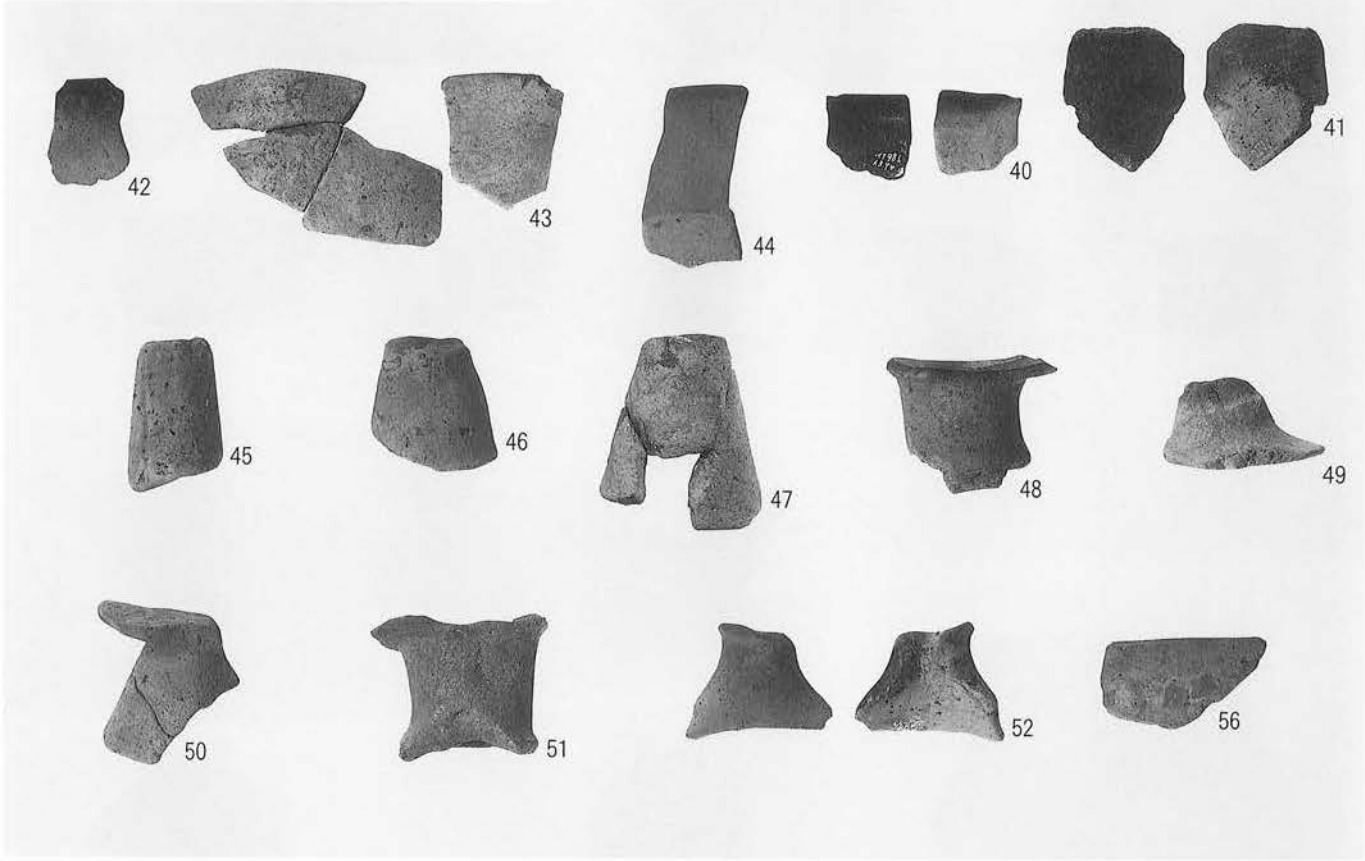
Ⅱ地区ＳＩ－１　層位（東から）


SI-1
1
2
3
4
5
6
7
8
12
13
9
10
11
SP-1
14
SD-1
15
16
SD-2
17
18
19
SK-1
20
SK-2
21
22
23
24
25
26
31
27
28
29
32
SK-3
33
34
35
36

I 地区出土遺物

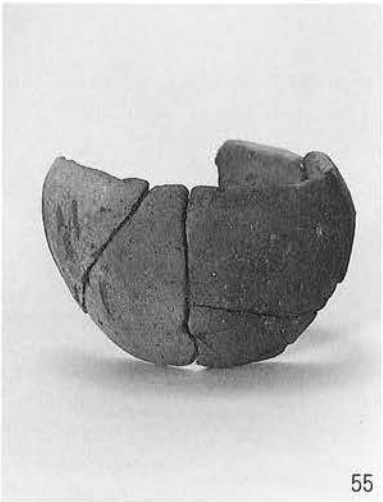
37


38
39


42
43
44
40
41
45
46
47
48
49
50
51
52
56

53

54


55

57

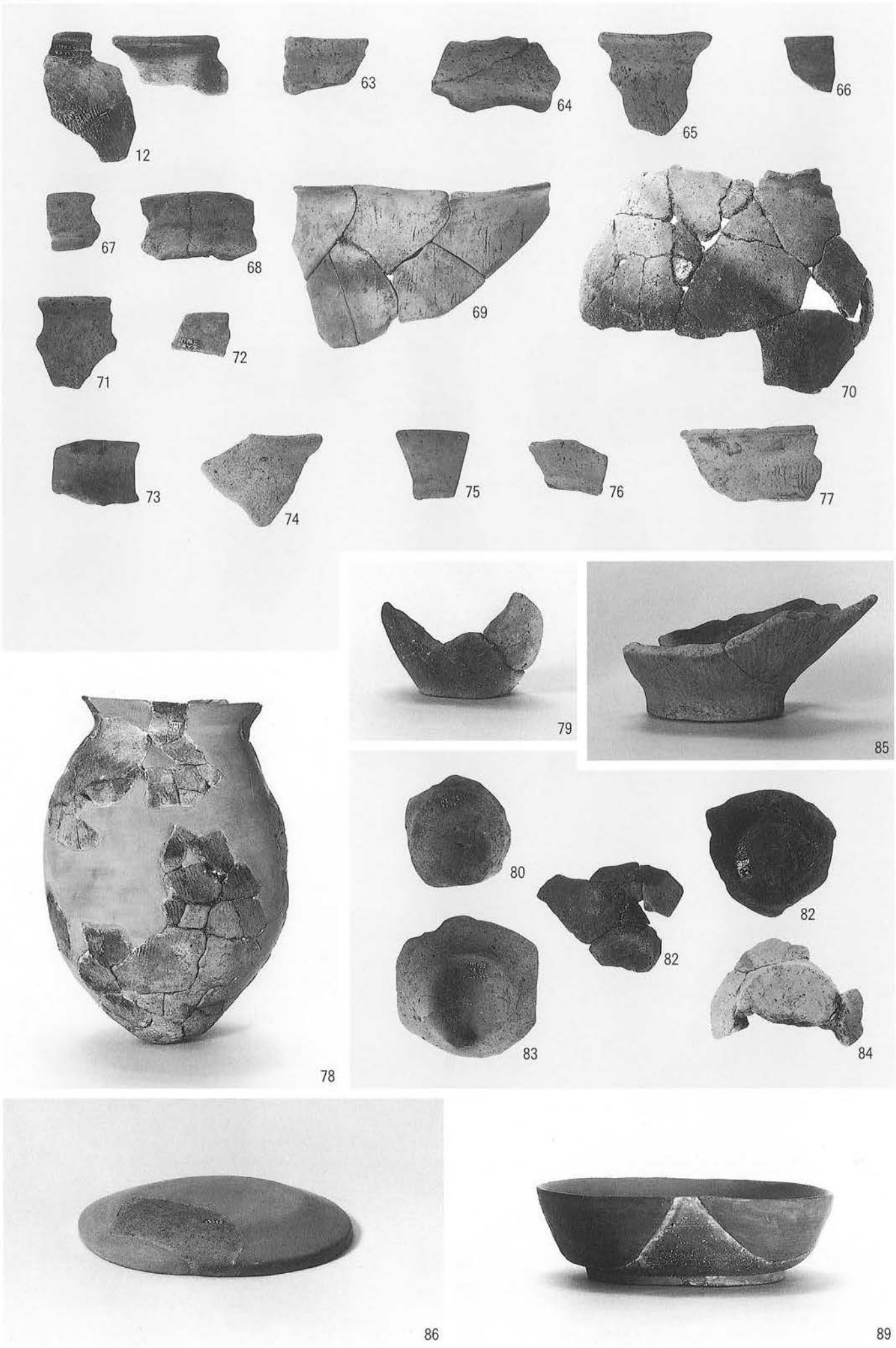
58

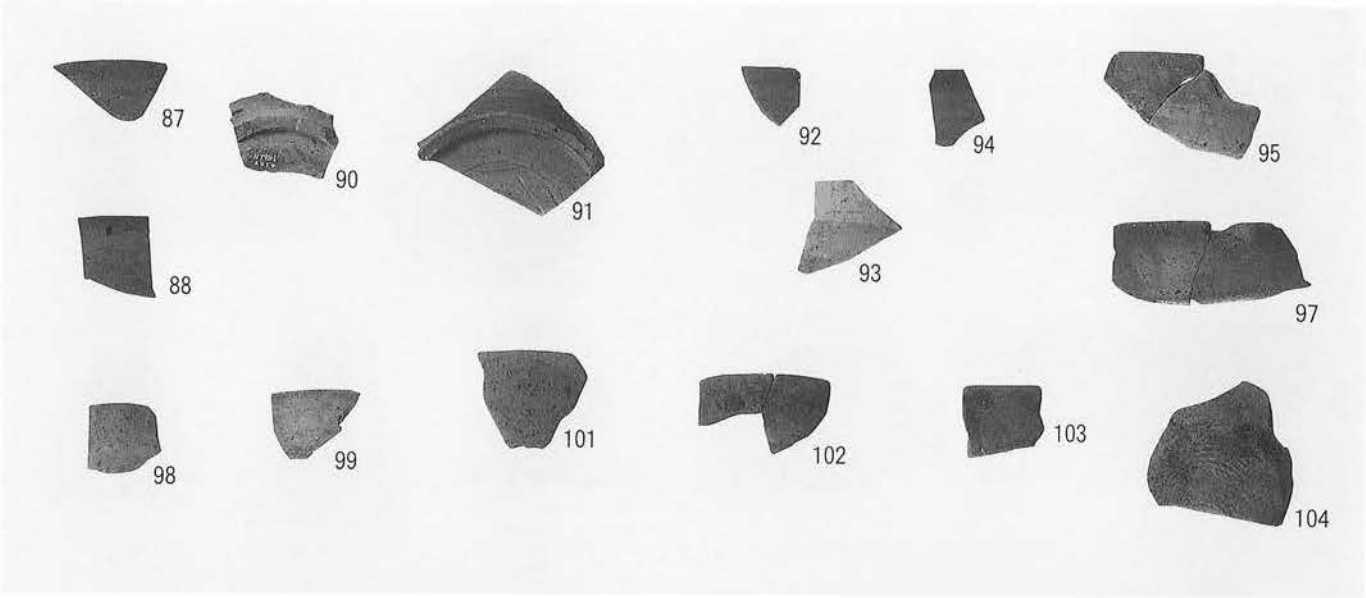
59

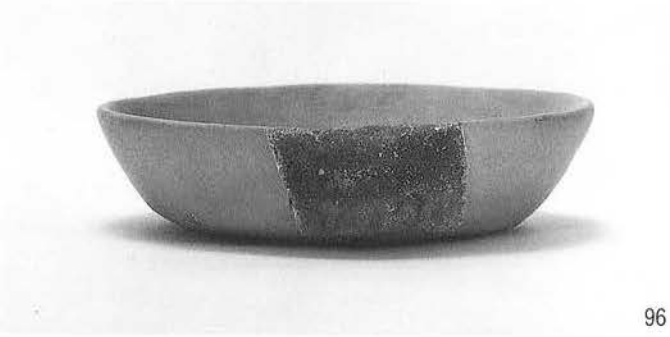
60

61

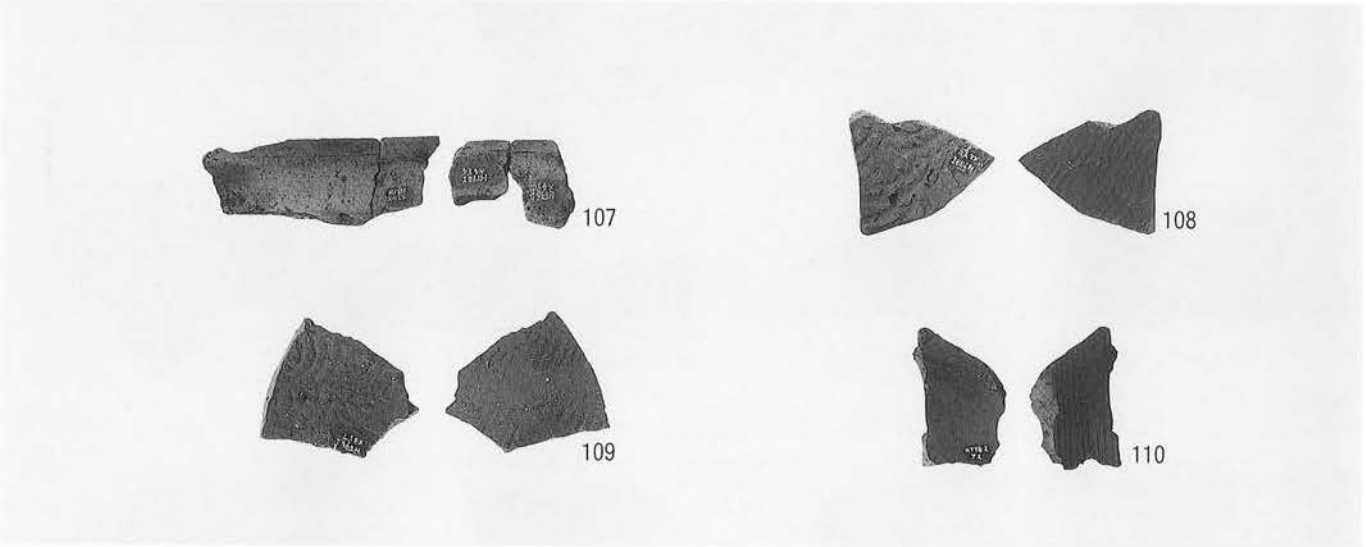
Ⅰ地区出土遺物


12
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
79
85
78
80
82
82
83
84
86
89


87
90
91
92
94
95
88
93
97
98
99
101
102
103
104


96

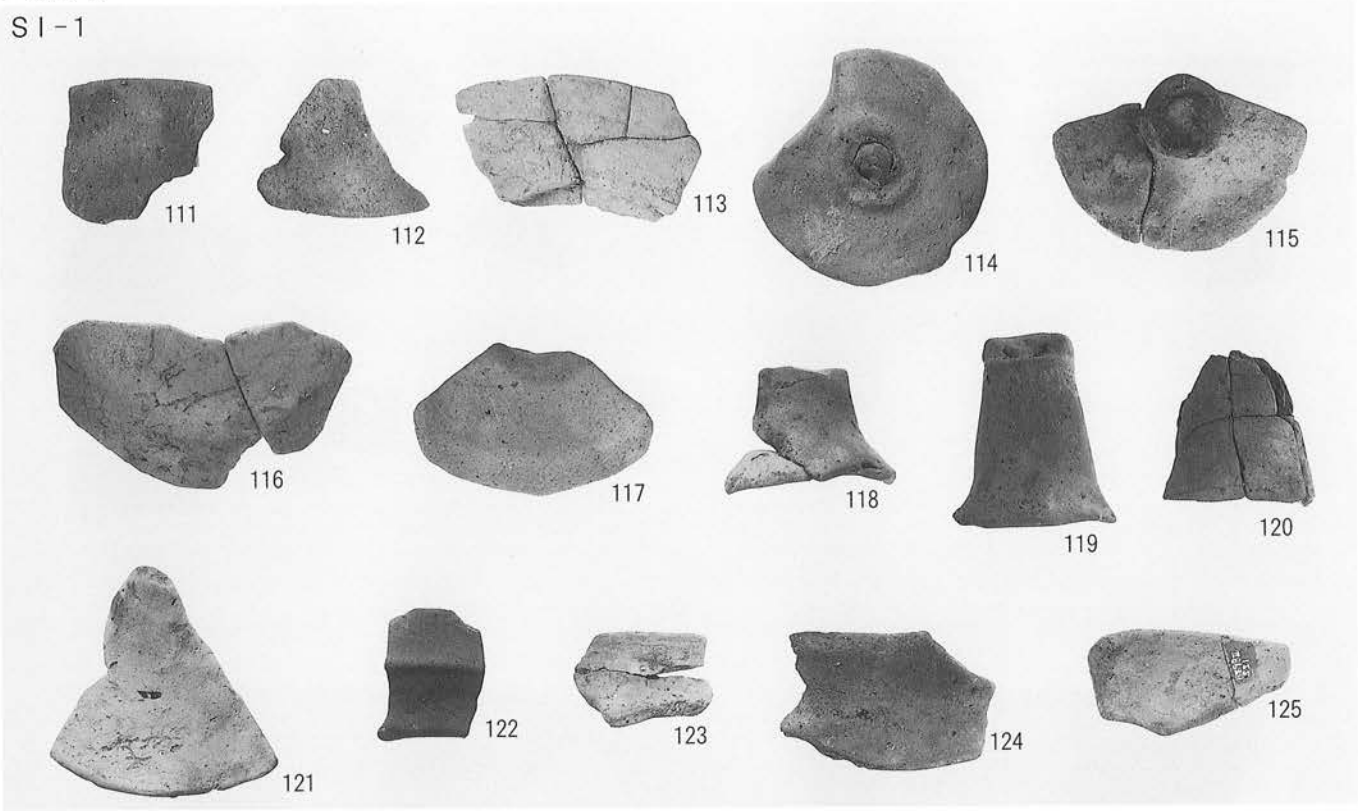
100


107
108
109
110

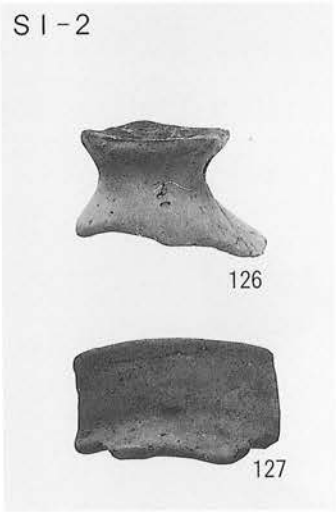
105

106

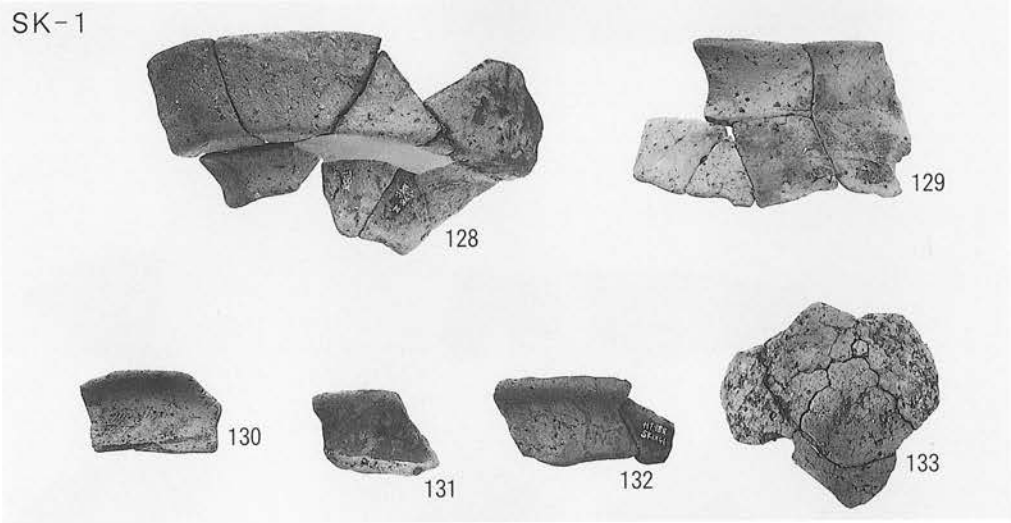
SI-1



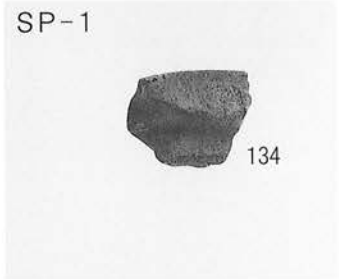
SI-2



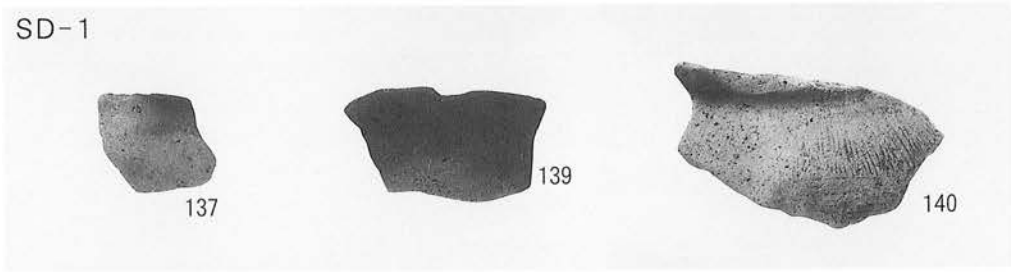
SK-1



SP-1



SD-1



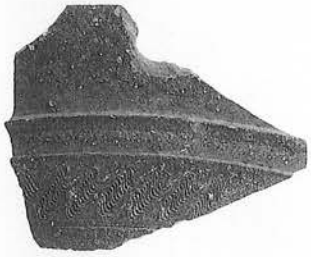
SP-2

141

142

143

144


145

147

147

148

149

150

151

152

153

155

156

157

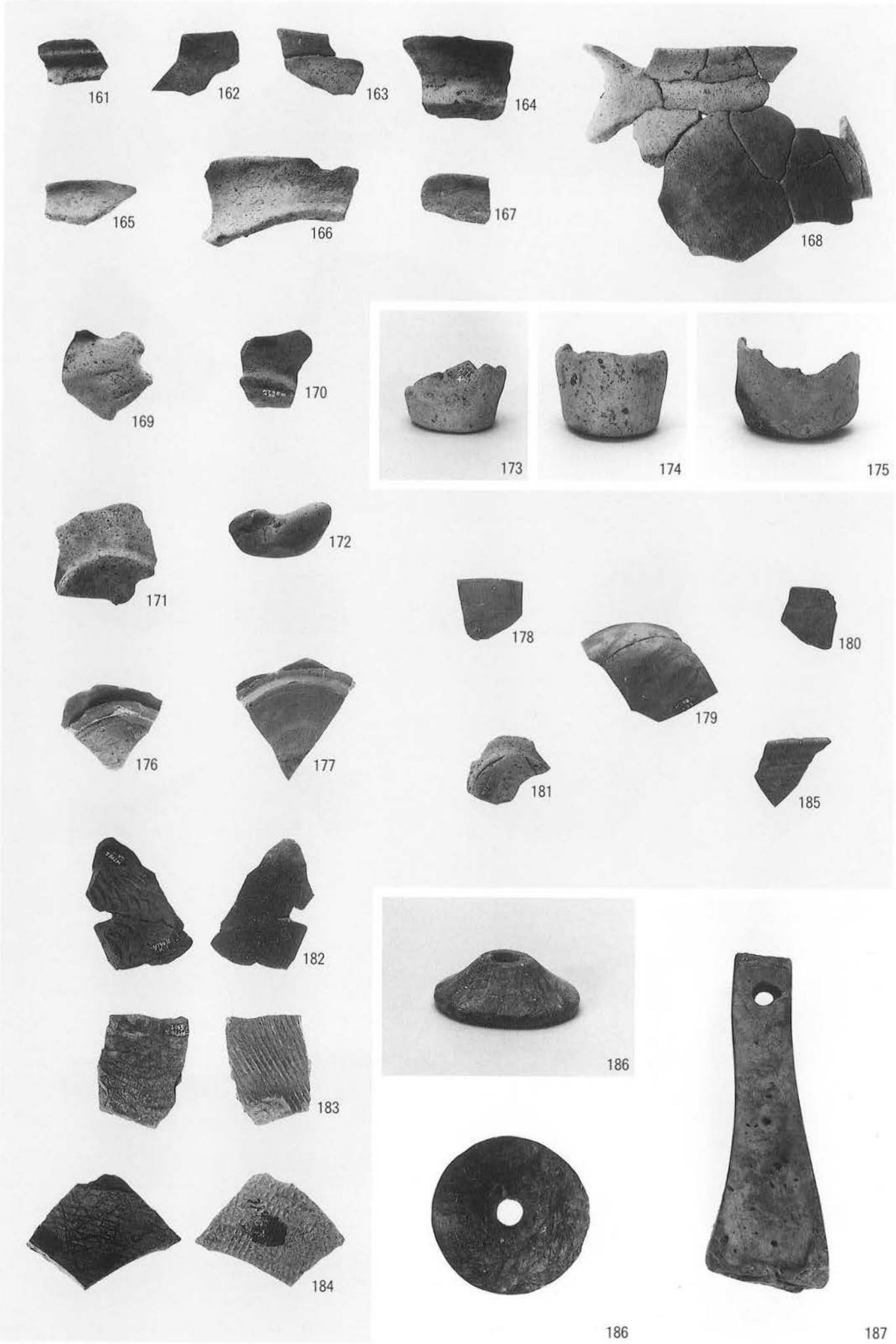
158

159

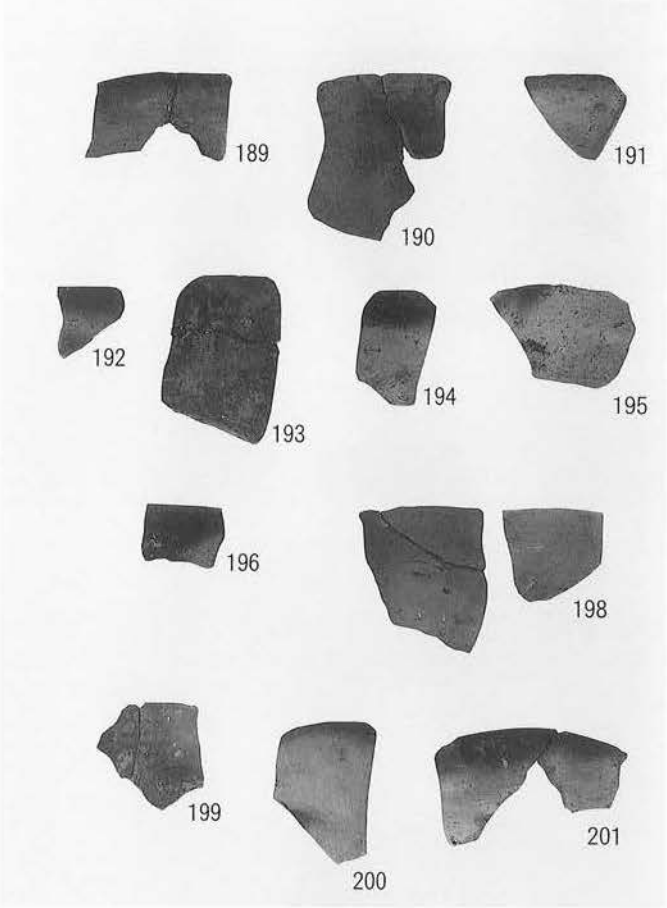
160

154

Ⅱ地区出土遺物


161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
173
174
175
171
172
178
180
176
177
179
181
185
182
186
183
186
187
184

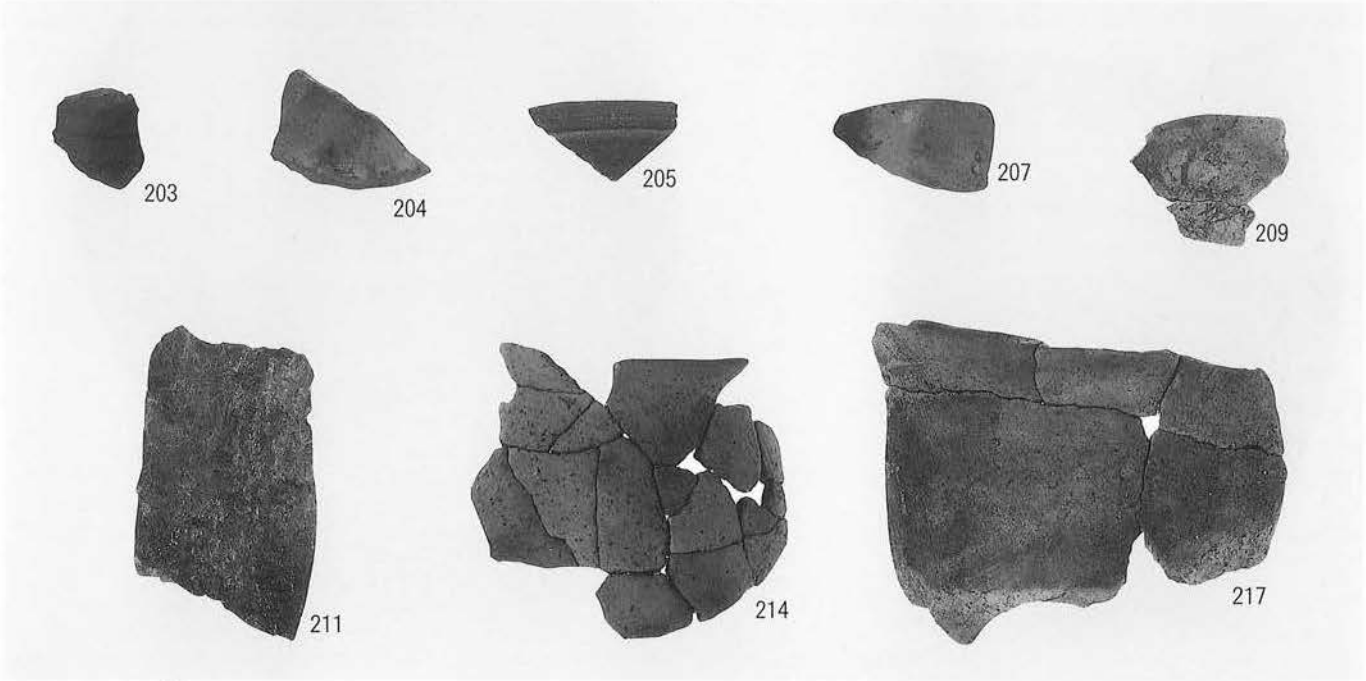
188



188

197

202



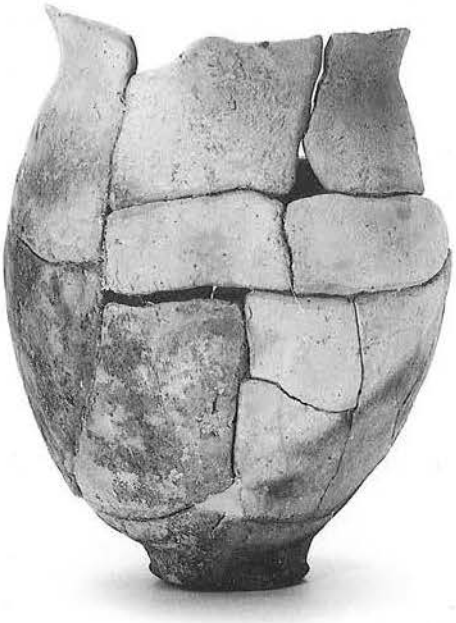
206

210

208

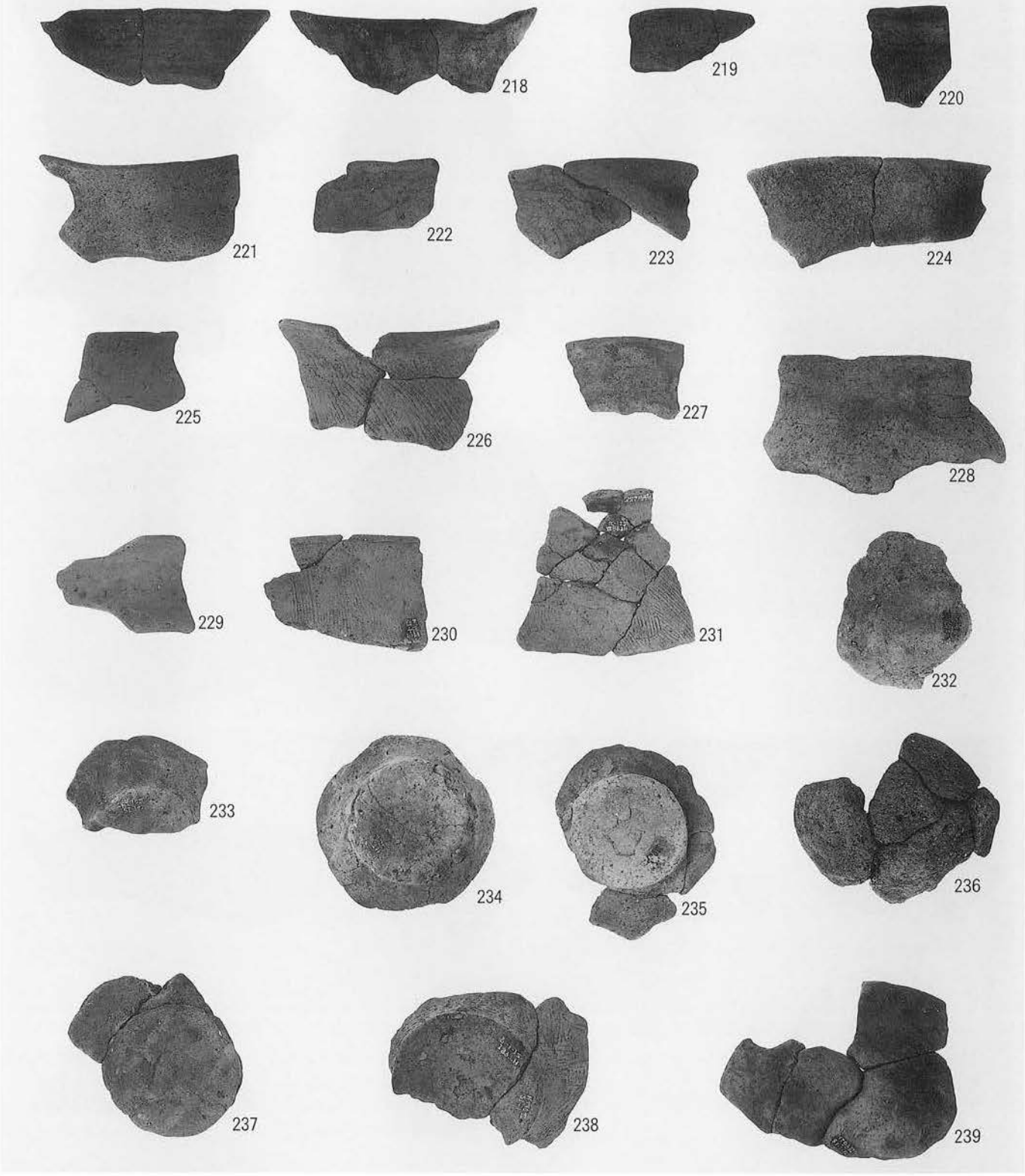
215

212


213

216

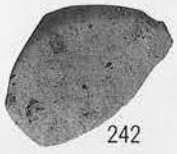
SI-1



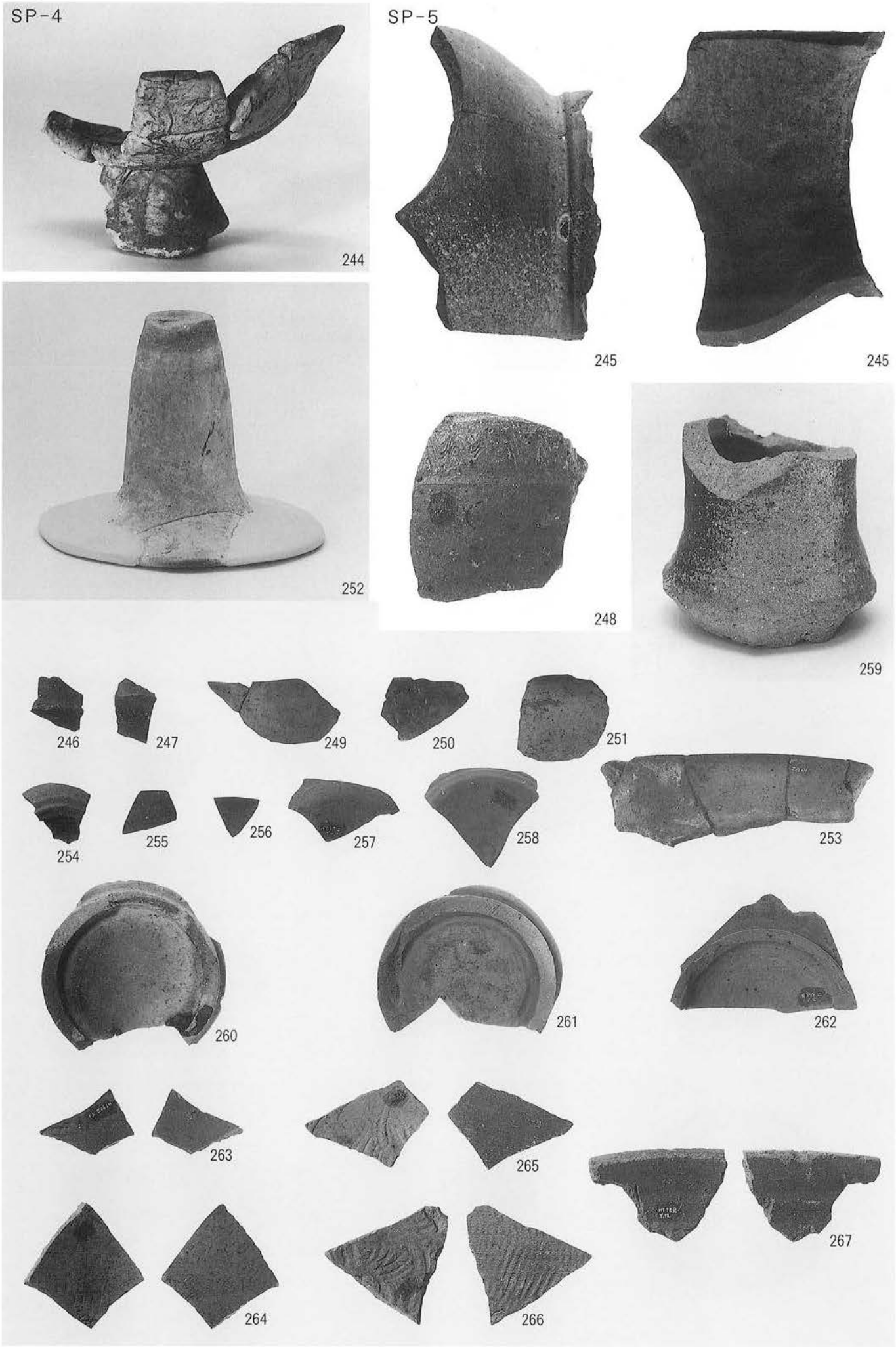
SP-1

SP-2

SP-3



Ⅰ地区出土遺物


SP-4
244
SP-5
245
245
252
248
259
246
247
249
250
251
254
255
256
257
258
253
260
261
262
263
265
264
266
267

西山町文化財調査報告書第５集

新潟県刈羽郡西山町

畠田遺跡発掘調査報告書

―県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査―

２００１年３月

発行　西山町教育委員会

印刷　北越印刷株式会社
長岡市福住１丁目６－27